

# コロナ後遺症調査結果

公民学でコロナ後遺症を支援

---

令和4年(2022年)12月14日(水)

大阪大学大学院医学系研究科感染制御医学講座

株式会社Buzzreach

豊中市

# 次第

---

1. 挨拶・出席者紹介
2. 調査結果報告
3. 写真撮影
4. 質疑応答



# 事業の目的・概要

- ①新型コロナウイルス感染症に罹患した人の罹患後症状、すなわち「**コロナ後遺症**」に関する実態を把握し、今後の医療や後遺症に悩まれる方の支援に活かすための調査を実施しました。
- ②調査に際して、  
**大阪大学大学院医学系研究科感染制御医学講座 忽那 賢志教授**  
**株式会社Buzzreach**  
**豊中市との**公民学連携****で共同研究を実施しました。

## ※コロナ後遺症

新型コロナウイルス感染症罹患後、感染性は消失したにもかかわらず、他に明らかな原因がなく、急性期から持続する症状や、あるいは経過の途中から新たに、または再び生じて持続する症状全般



# 事業スキーム

新型コロナウイルス感染症に罹患した市民



① アンケート送付



②-2 書面回答返送

豊中市



保健所



⑥ 解析結果共有

大阪大学大学院  
医学系研究科  
感染制御医学講座

⑤ データ解析



④ 集計データ共有

buzzreach

③ データ集計



②-3 書面回答結果送付

②-1 アプリによる回答入力

⑦ 結果の公表  
今後の相談支援に活用

②-1' 回答傾向のフィードバック・専門医監修の医療情報の発信

患者等主観情報収集アプリ『VOICE』



# 調査結果（回答数など）

- アンケート送付

送付対象者 令和4年3月末までにコロナに罹患した市民

送付時期 令和4年7月

有効発送数 26,880件（宛先不明等を除く）

- 回答数

書面 2,492件

アプリ 1,555件

合計 **4,047件**

- 回答率 **15.1%**

# とよなかコロナ後遺症相談窓口

## 【相談状況】

- ・ 件数：374件（令和4年4～11月）
- ・ 対応：症状の聴取と状態に応じ医療機関受診勧奨  
医療精査後も原因不明の症状が続いている場合、  
傾聴とともに、必要時生活支援サービス等関係機関  
との連携



調査結果ならびに公民学連携で得られた情報等を、  
医療機関等とも共有し、診療及び相談支援に活用する

# VOICEを活用したアンケート調査について

2022年12月14日

テクノロジーの力で  
一人でも多くの患者さんに  
新しい選択肢を。

- アプリを活用したアンケート調査について
- 現状のアンケート調査
- VOICEとは
- VOICEで得られる大きなメリット
- 掲示板機能
- アンケート回答データの公開（みんなの回答）



## アプリを活用したアンケート調査について

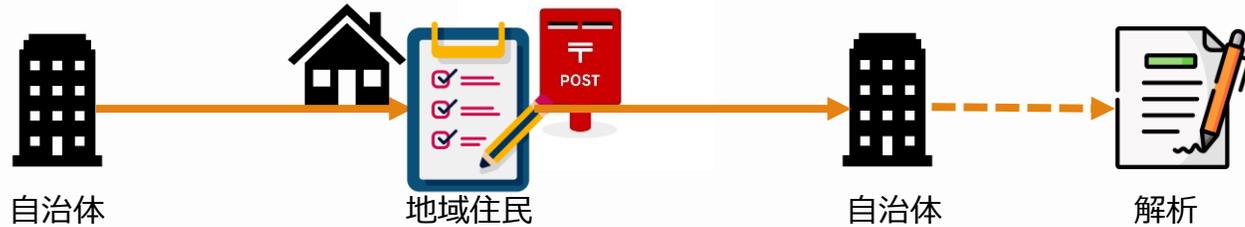
新型コロナウイルス感染症罹患後の症状（いわゆる後遺症）は罹患後一定期間を経過したにも関わらず症状が持続したり断続的に症状が出現するため、単発アンケート調査では実態がつかみにくいのが現状です。

そのため、継続的なアンケート回答の収集により、よりリアルな実態を把握することを目的とし、当社の提供するアプリ「VOICE」を活用し調査を行うことになりました。



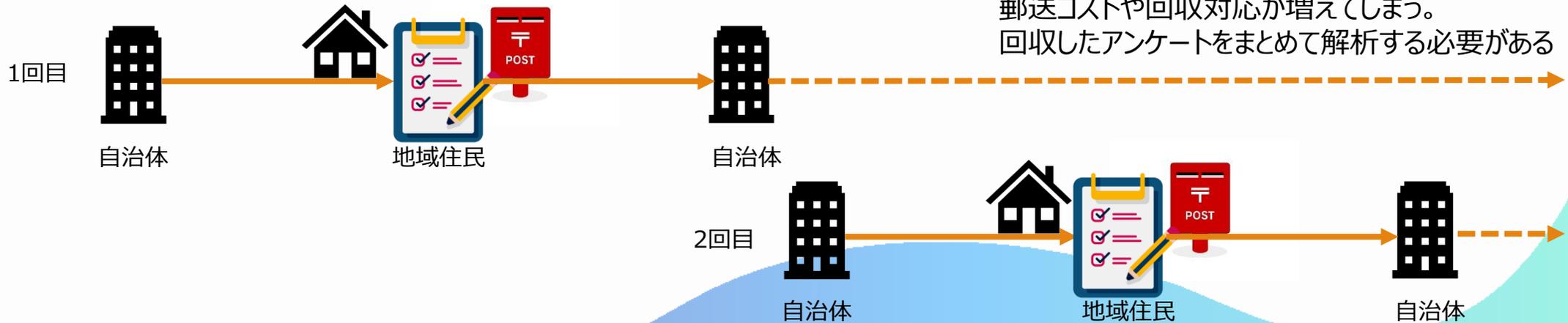
# 現状のアンケート調査

▶ 紙アンケートでの調査の場合、単発的な情報収集となる



表面的な情報のみとなってしまう。

▶ 経時的な情報を収集するには定期的にアンケート調査の送付が必要となる



郵送コストや回収対応が増えてしまう。  
回収したアンケートをまとめて解析する必要がある

## 医療機関や自治体毎にカスタマイズ可能なアンケート機能を備えたアプリケーション



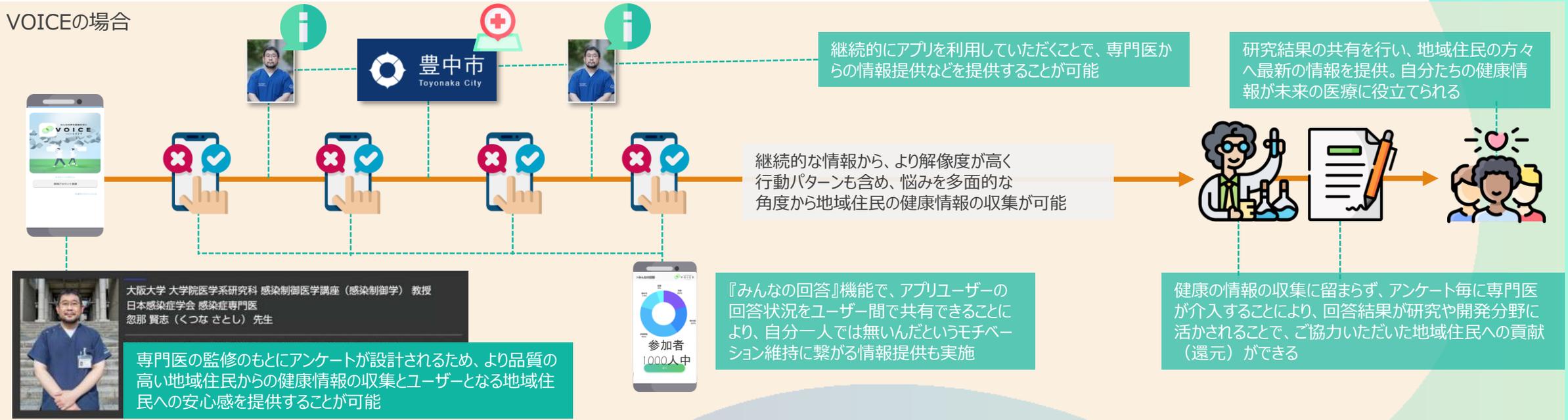
アプリ : VOICÉ powered by ミライク  
ユーザー向けインセンティブ (専門家や自治体からの関連情報提供・データ共有)



# VOICEで得られる大きなメリット

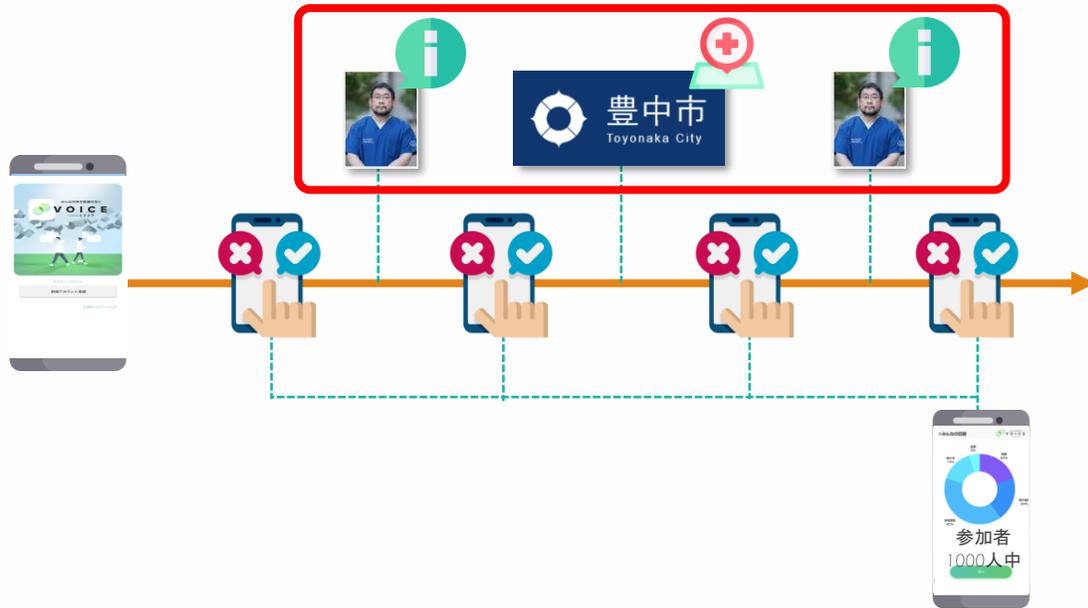
- ・単発的な調査（アンケート）ではなく、継続的な調査を行うことにより地域住民の悩みを収集することが可能
- ・専門医の監修のもと、様々な後遺症症状で悩む地域住民向けに継続的な健康状態の把握が可能
- ・専門医からのエビデンスに基づいた情報提供などを提供することが可能
- ・紙アンケート調査において発送に関するコストの削減や地域住民が返送する手間を削減することが可能

## VOICEの場合



# 掲示板機能

専門医からのエビデンスに基づいた情報の提供により、ユーザーとなる地域住民の安心感や知識の向上を図ることが可能



<11月 2022年 12月 1月>

月	火	水	木	金	土	日
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1



みんなの回答



参加プロジェクト



掲示板

VOICE


掲示板



大阪大学医学部附属病院

**「サル痘の流行は収まりつつある」**

😊 16 😐 1 😞 0

皆さんこんにちは。  
大阪大学の忽那です。

今年の5月にサル痘の世界的な流行が始まり、日本でもたくさんの報道があったことはご存知の通りかと思えます。

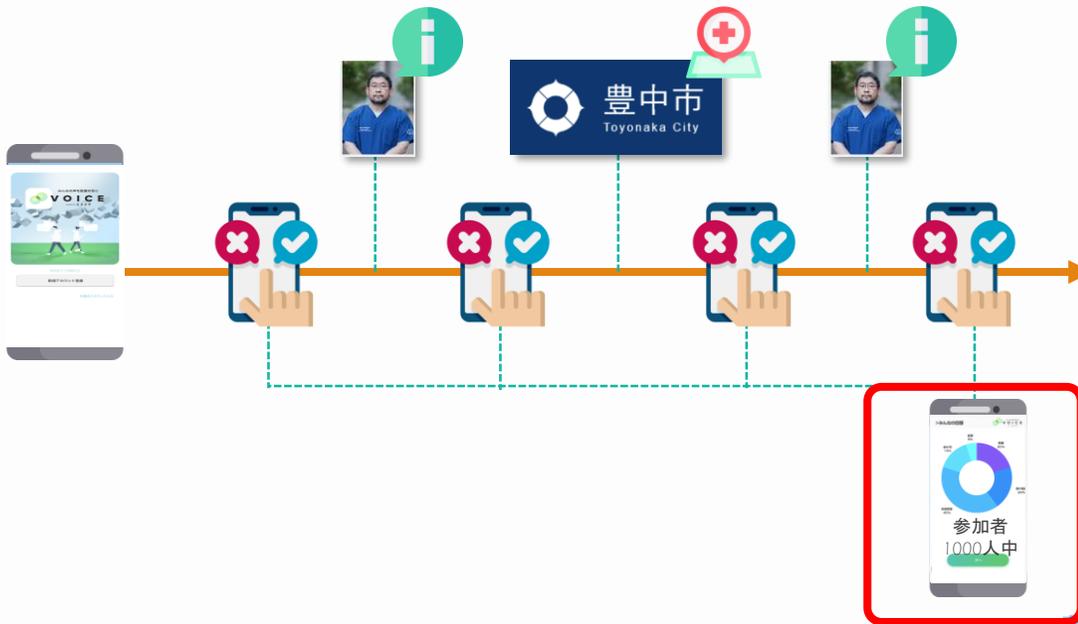
日本でも7例の患者さんがこれまでに報告されています。

これまでに分かっている確定例は大半が男性患者であり、20代から40代の比較的若い世代に多いことも特徴です。例えば、世界16カ国528例の報告では、症例のうち98%が男性とセックスをする男性（MSM）であり、年齢の中央値は38歳でした。この528例のうち95%が性交渉に関連した接触による感染が原因と考えられており、これらの感染者は性交渉のパートナーが多いという特徴が

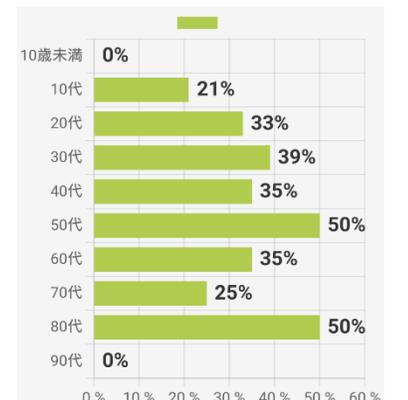
ホーム
お知らせ
資料
マイページ

# アンケート回答データの公開（みんなの回答）

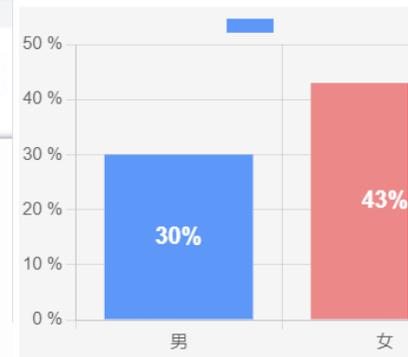
『みんなの回答』機能で、アプリユーザーの回答状況をユーザー間で共有できることにより、自分一人では無いんだというモチベーション維持に繋がる情報を提供する



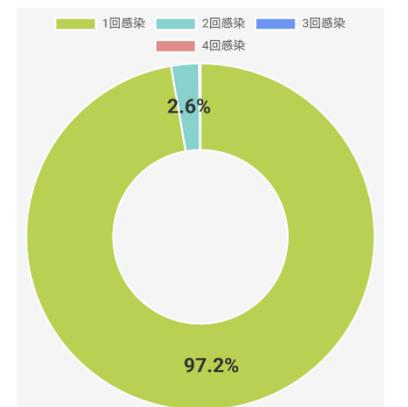

後遺症状がある人（感染1ヶ月後）の年代ごとの分布



後遺症状がある人（感染1ヶ月後）の男女比較



新型コロナウイルス感染回数





# for the future

—— Buzzreachは製薬企業と患者を繋ぐプラットフォームに

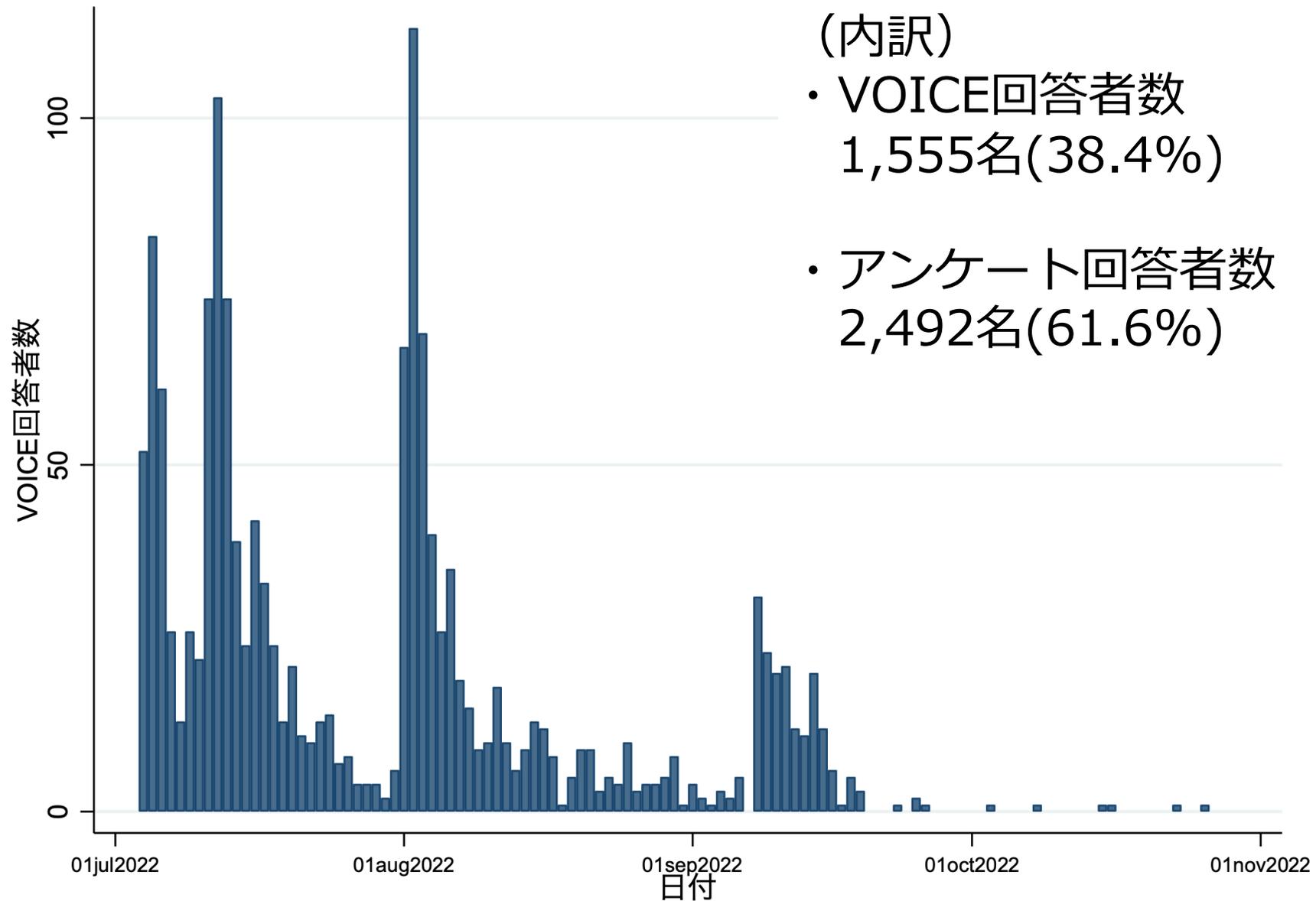


**buzzreach**

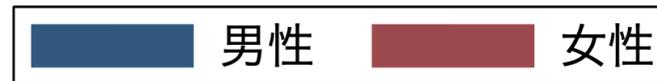
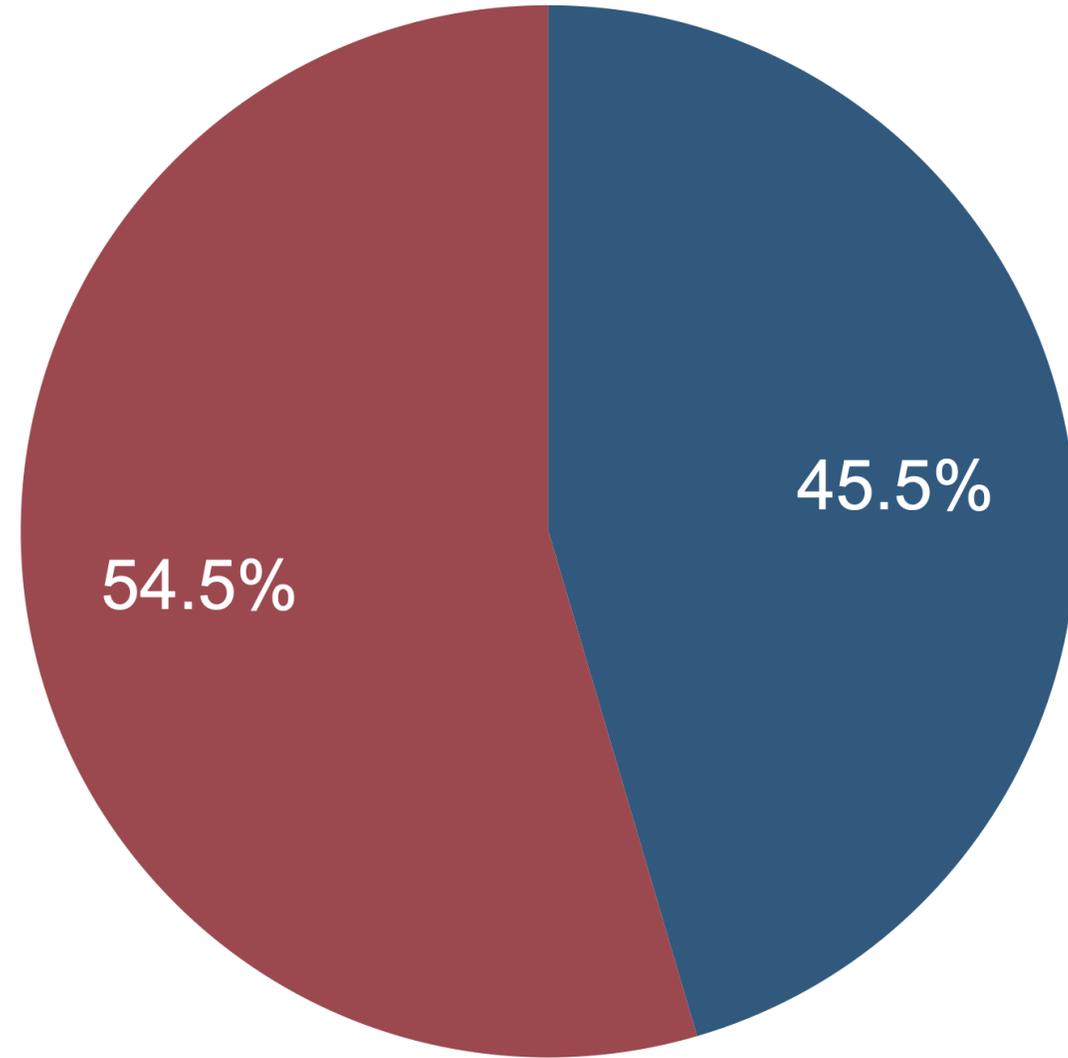
**アプリ「VOICE」を活用した  
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)罹患後症状  
(いわゆる後遺症)に関する観察研究**

**～豊中市における調査結果概要（案）～**

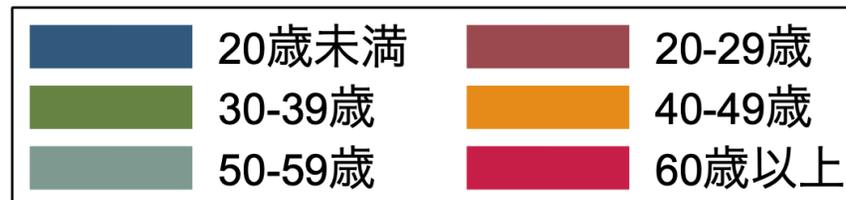
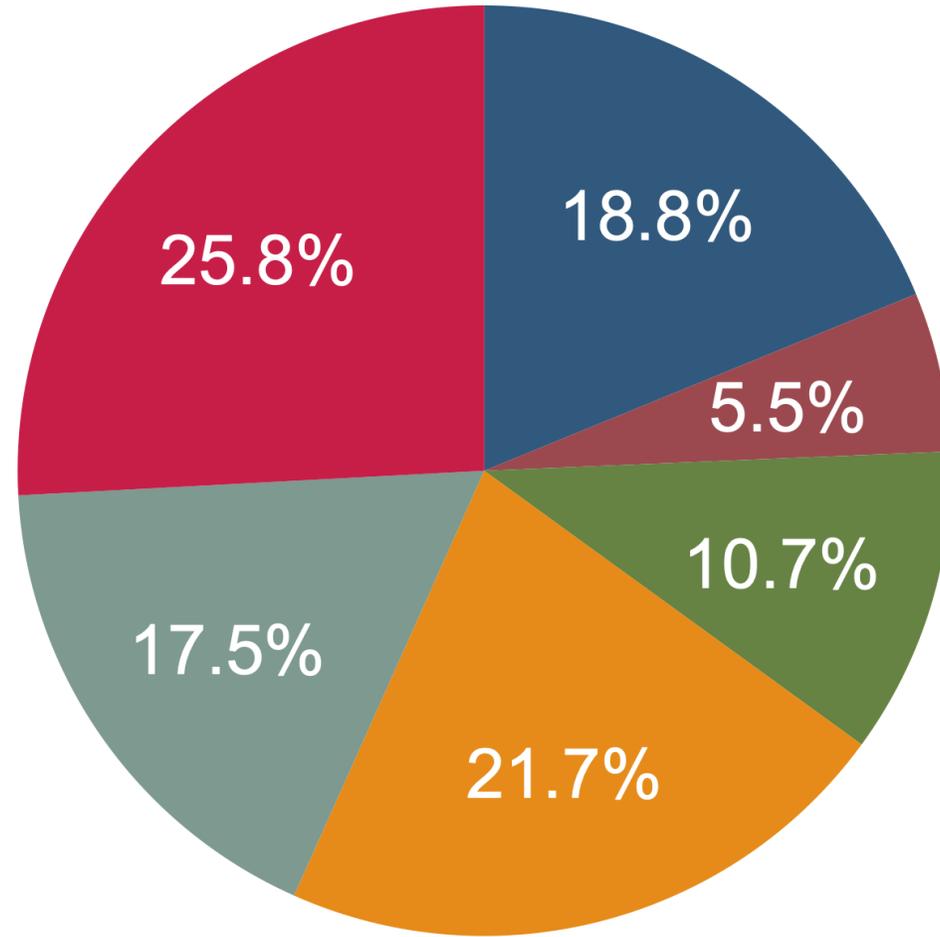
**大阪大学大学院医学系研究科感染制御医学講座  
忽那 賢志**



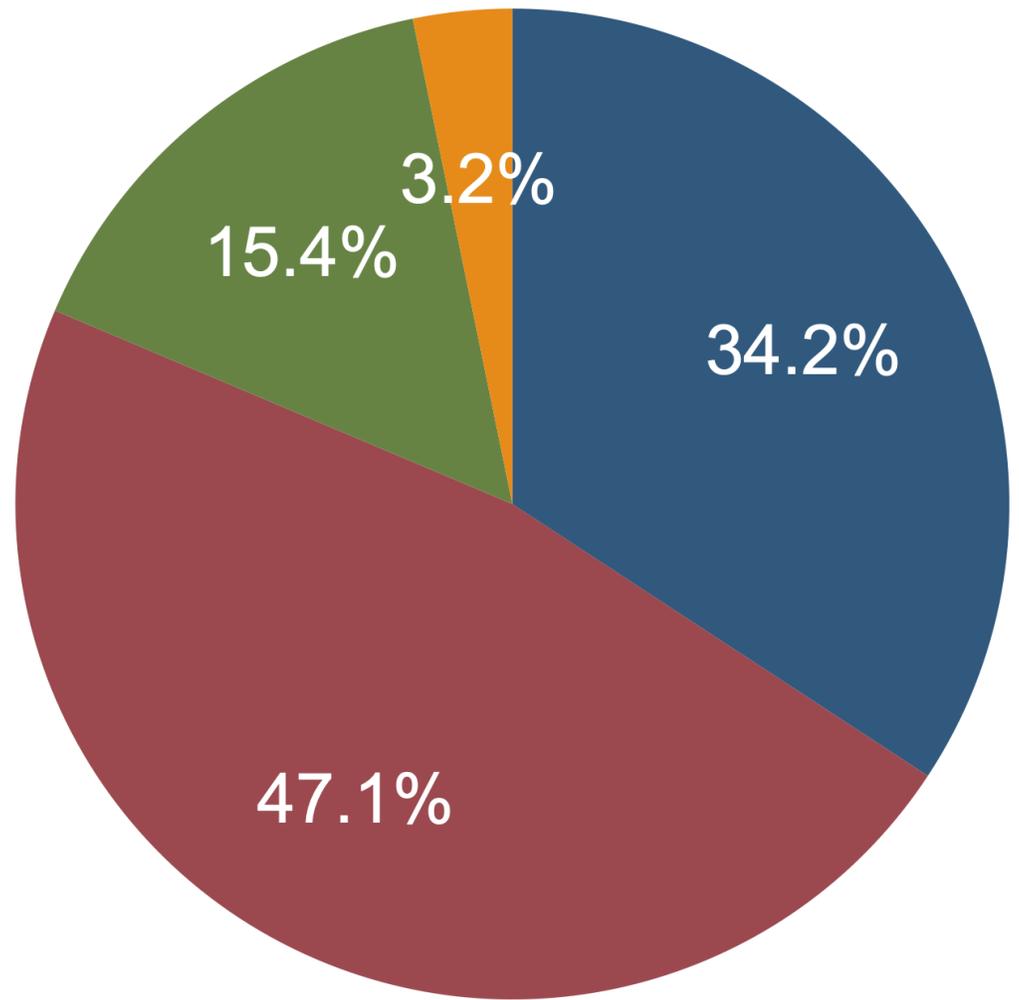
男性45.5%、女性54.5%



n=4,002



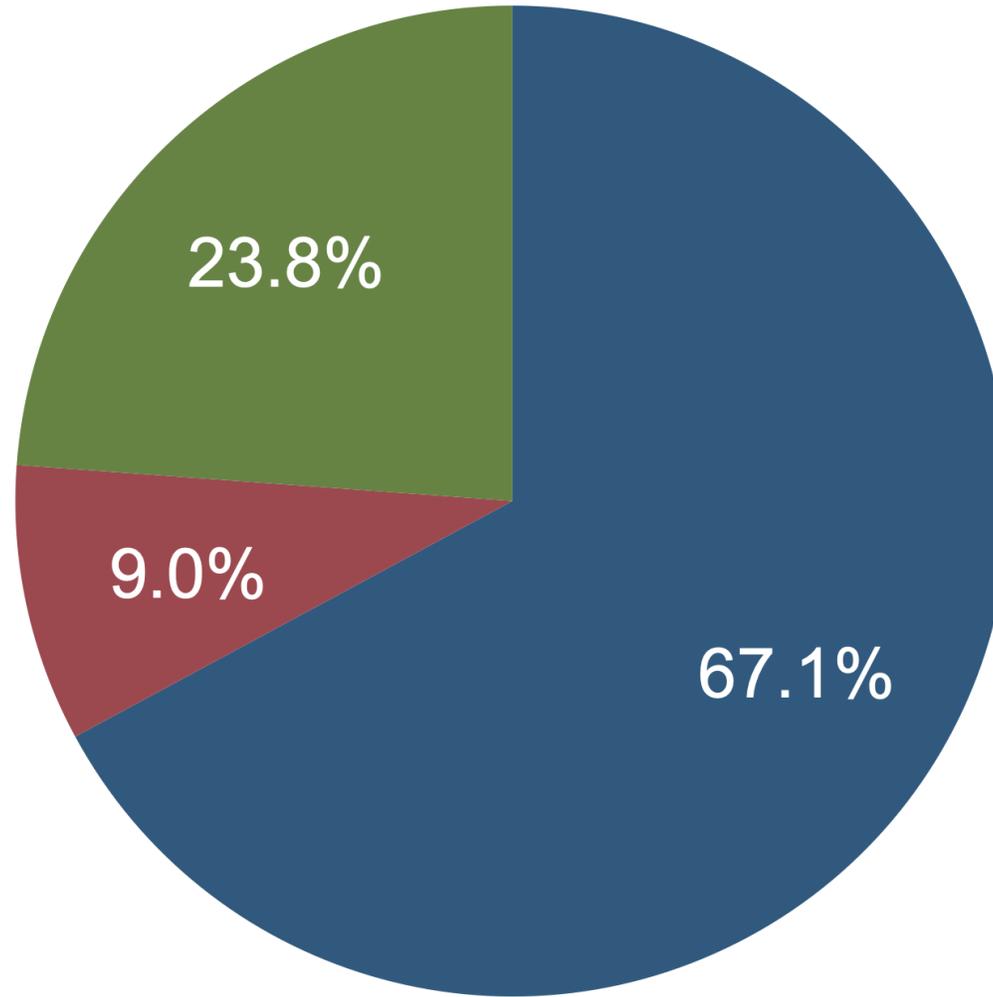
n=4,047



20未満	20-24
25-29	30以上

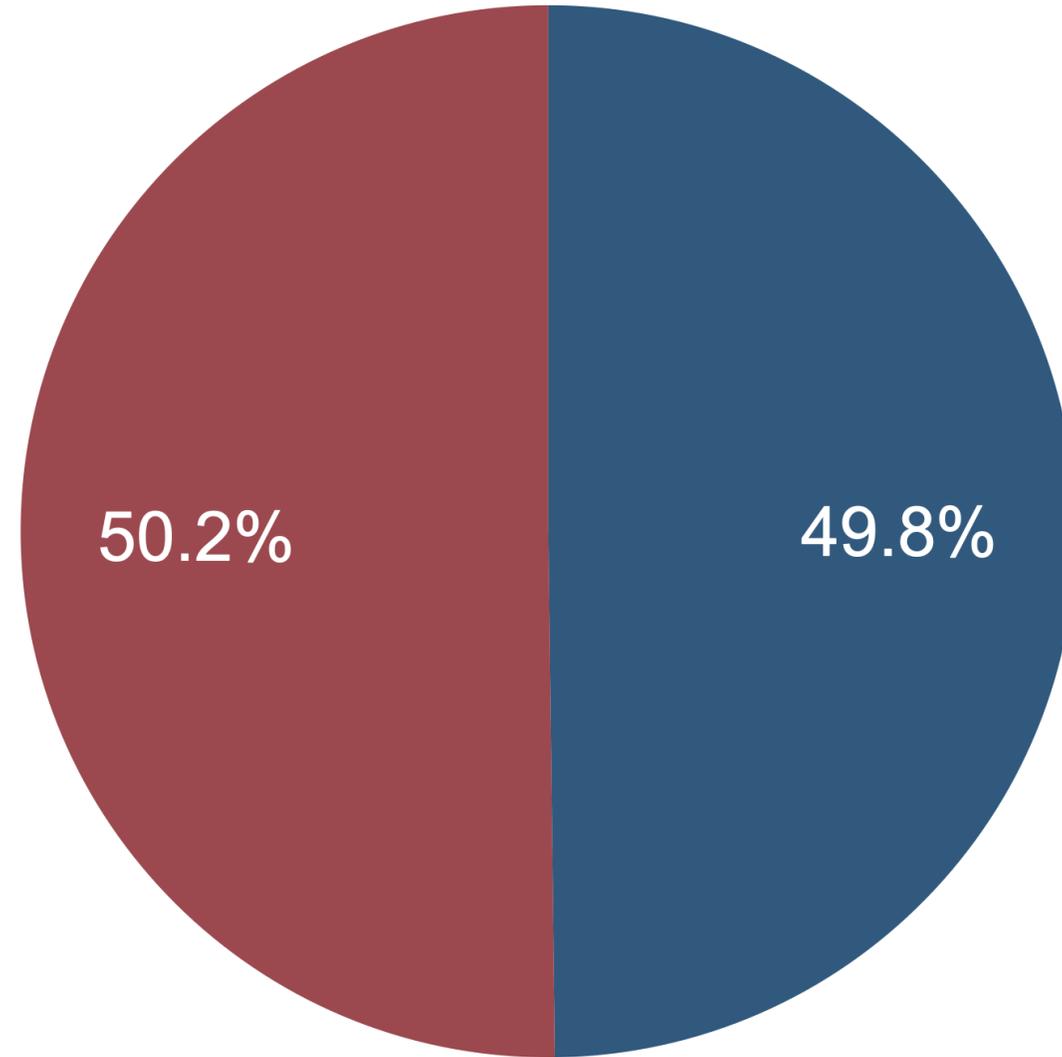
n=3,884

# 喫煙歴「なし」と回答した者が最も多く、67.1%



n=3,989

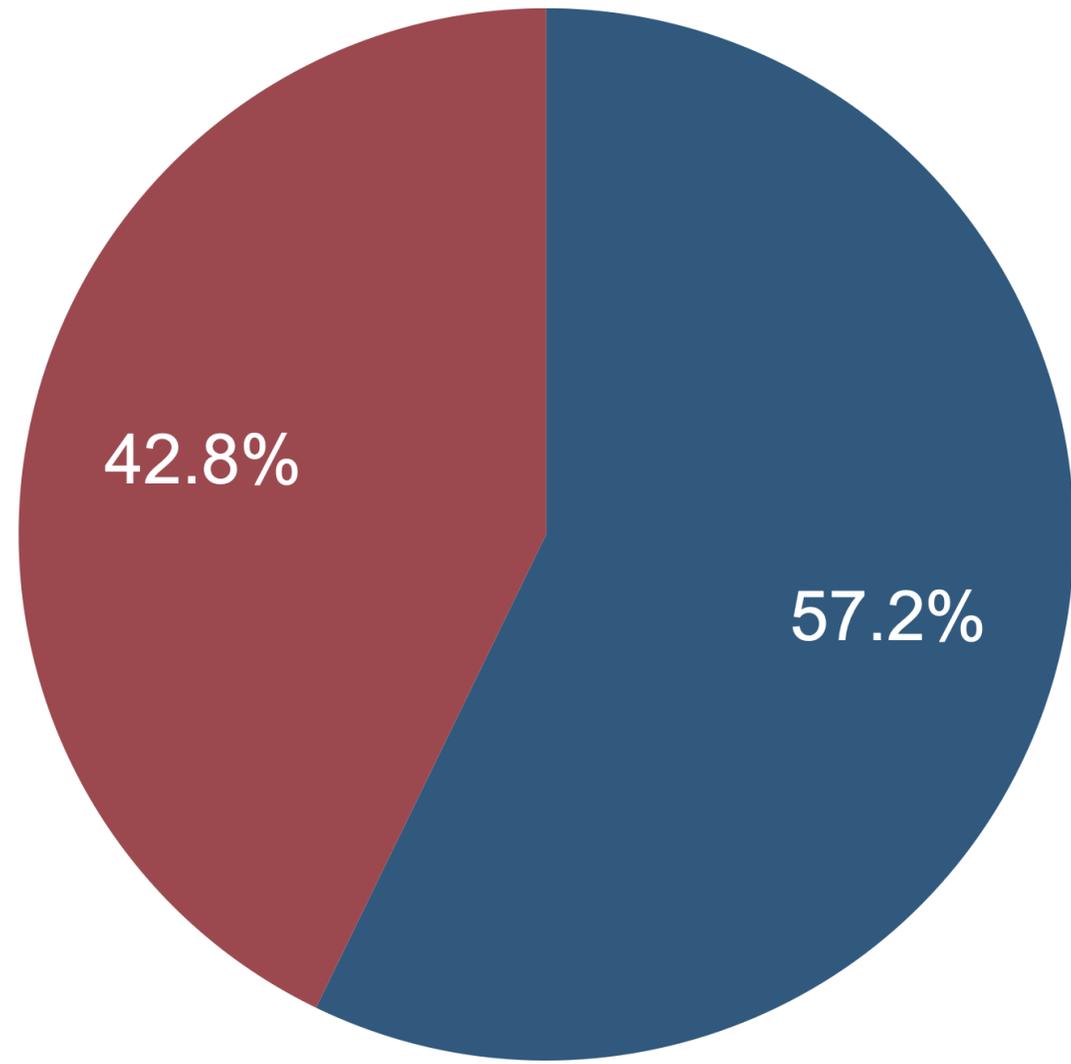
飲酒歴「あり」と回答した者が50.2%



いいえ はい

n=4,004

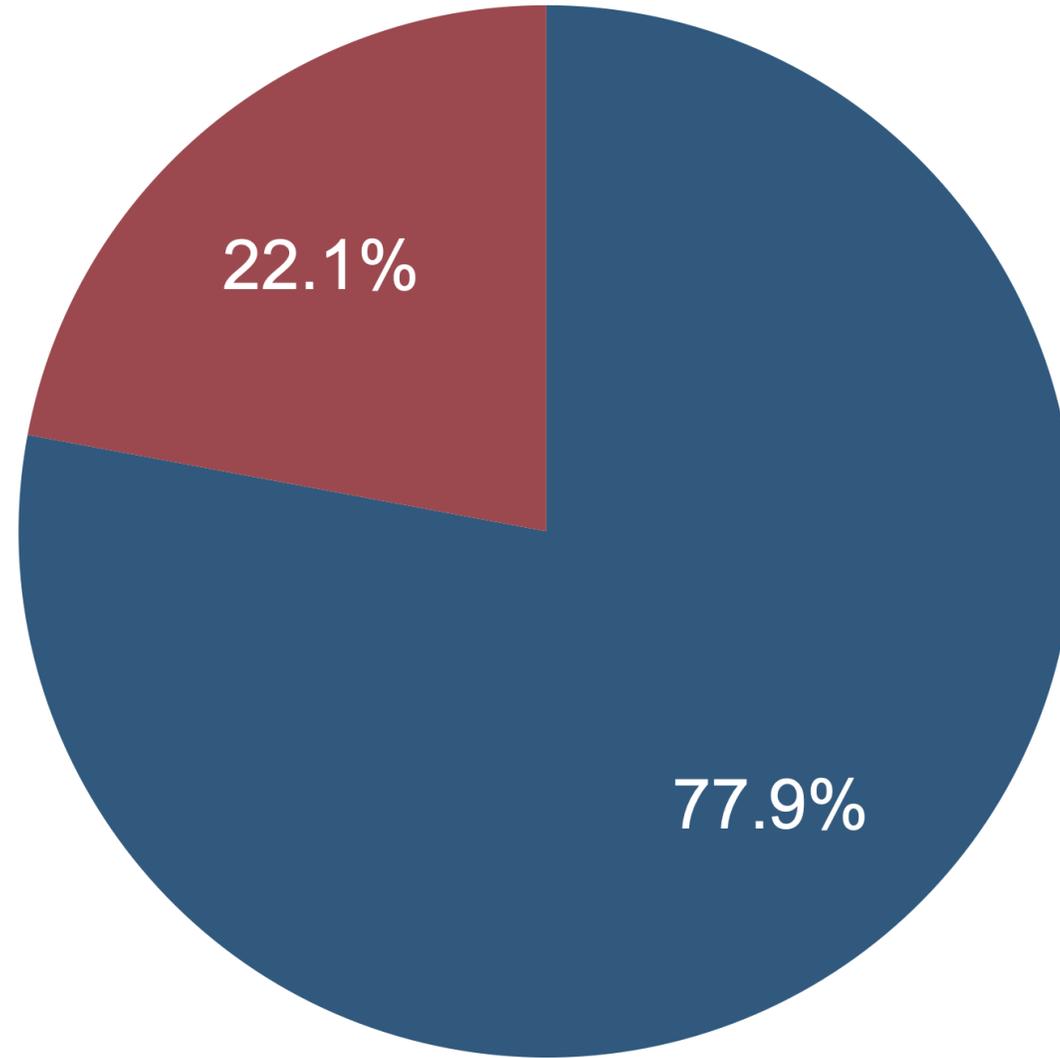
# 基礎疾患「あり」と回答した者が42.8%



いいえ はい

n=4,001

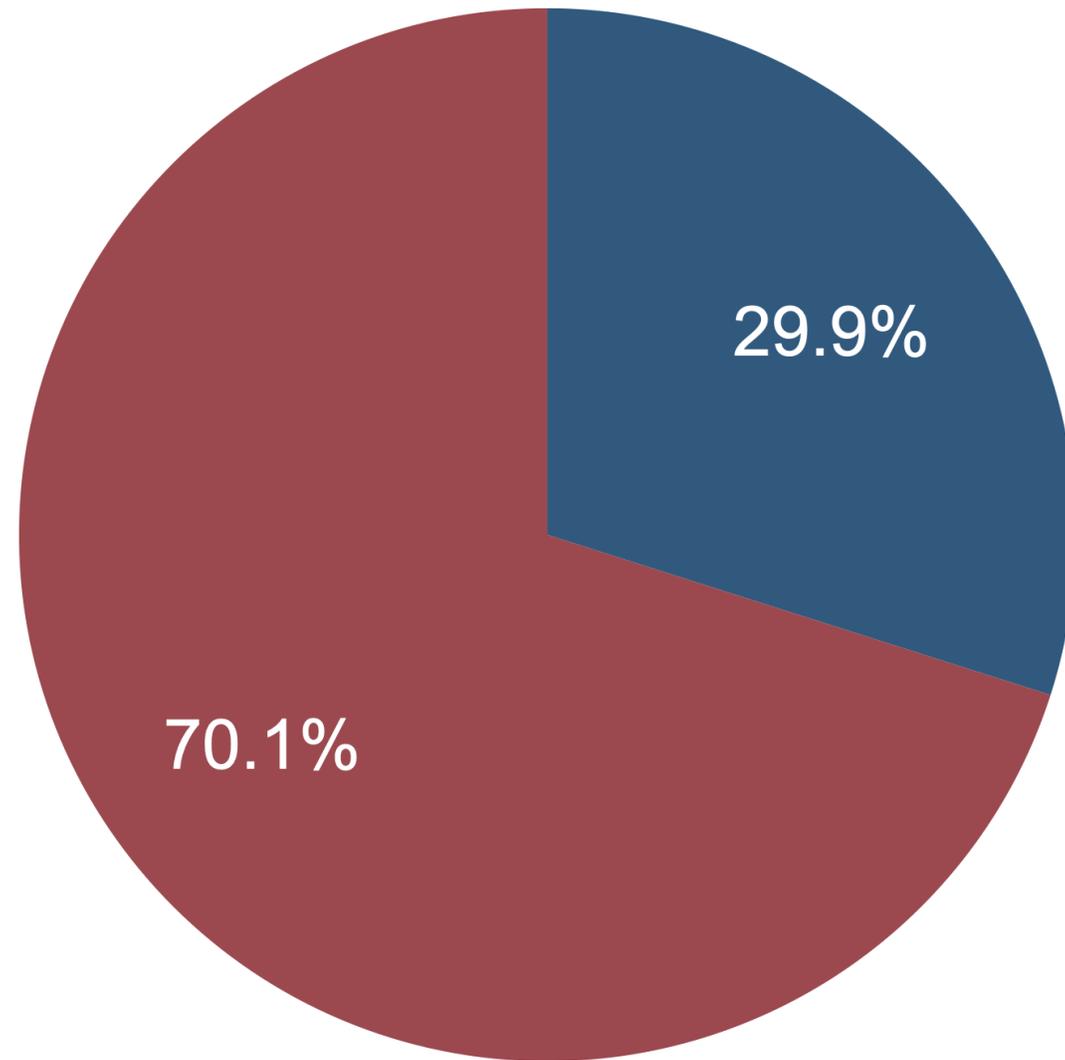
# コロナ感染後の体重増減「あり」と回答した者は22.1%



なし    あり

n=4,002

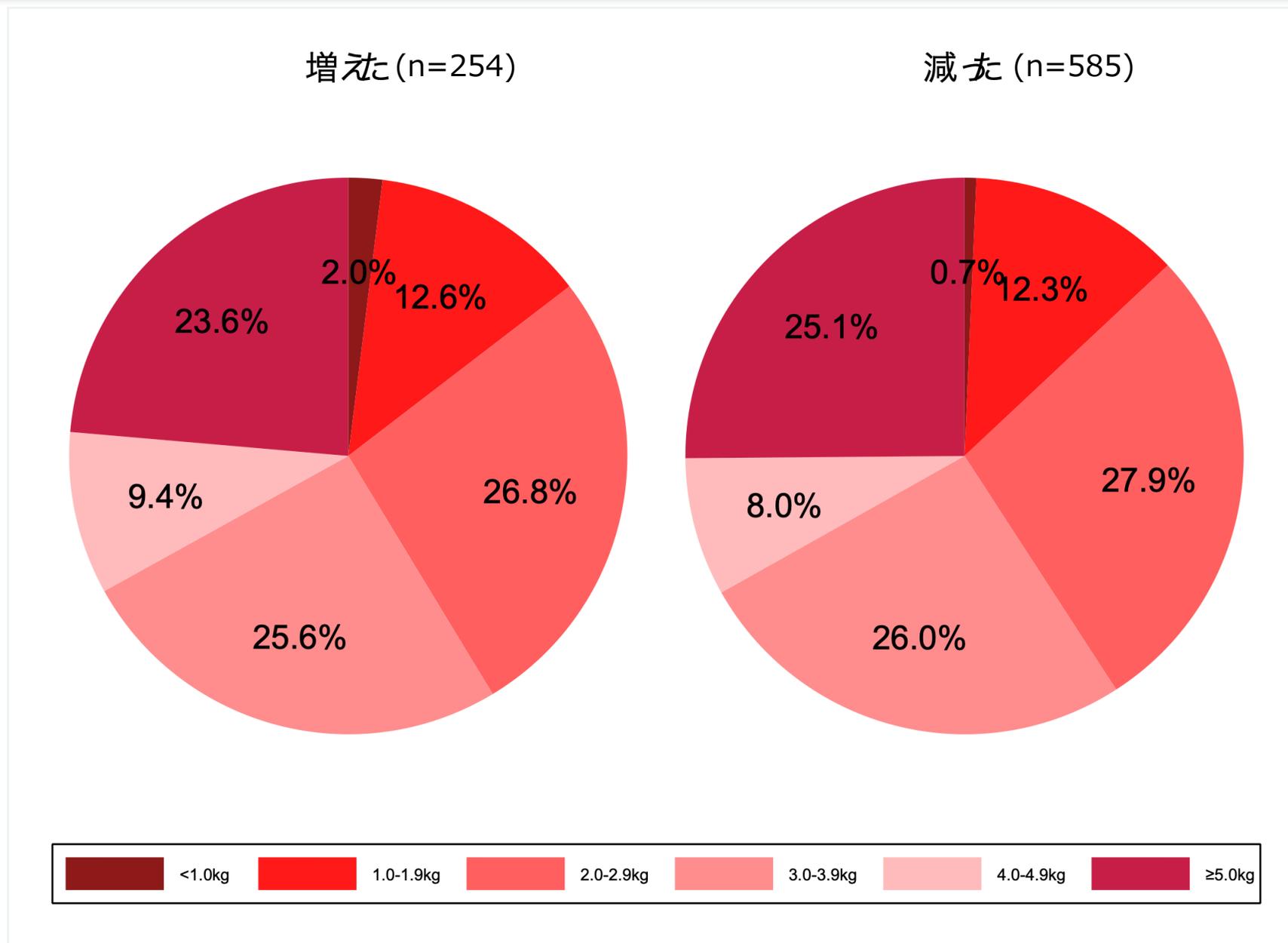
体重増減「あり」のうち、「減った」と回答した者が70.1%



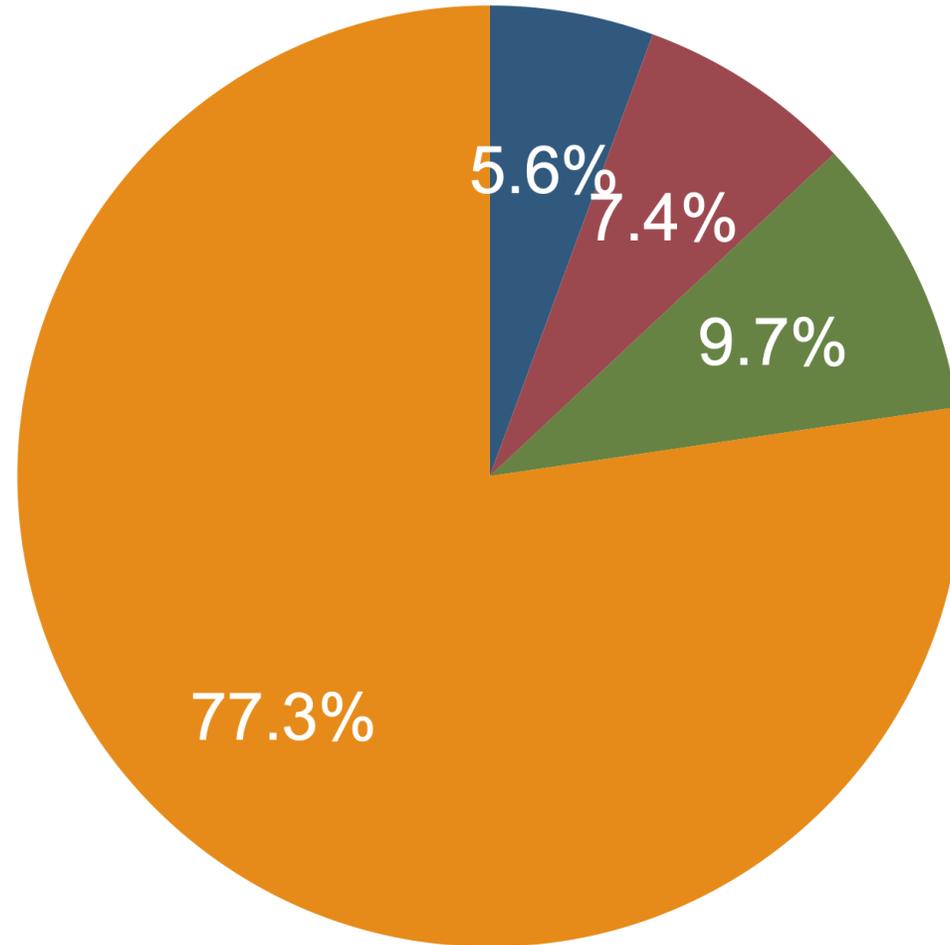
■ 増えた ■ 減った

n=879

# 体重の増減について、最も割合が多いのは「2.0~2.9kg」

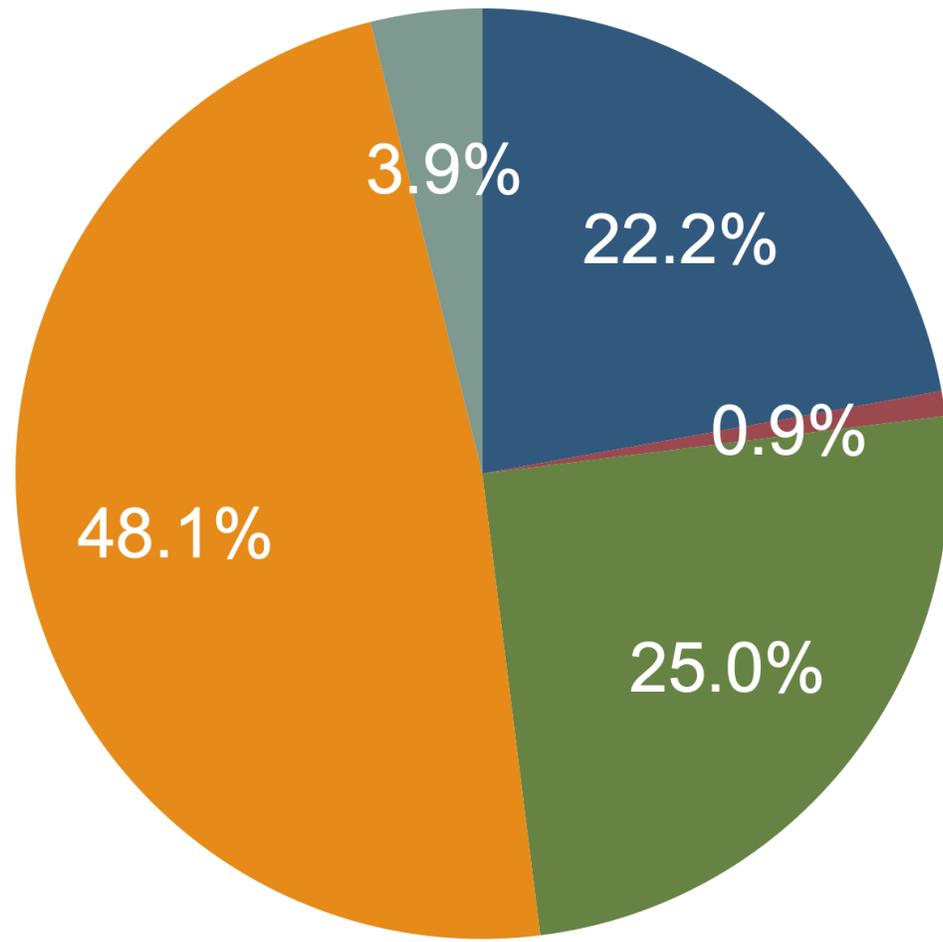


# 「オミクロン株（推定）」の感染者が最も多く77.3%



n=3,425

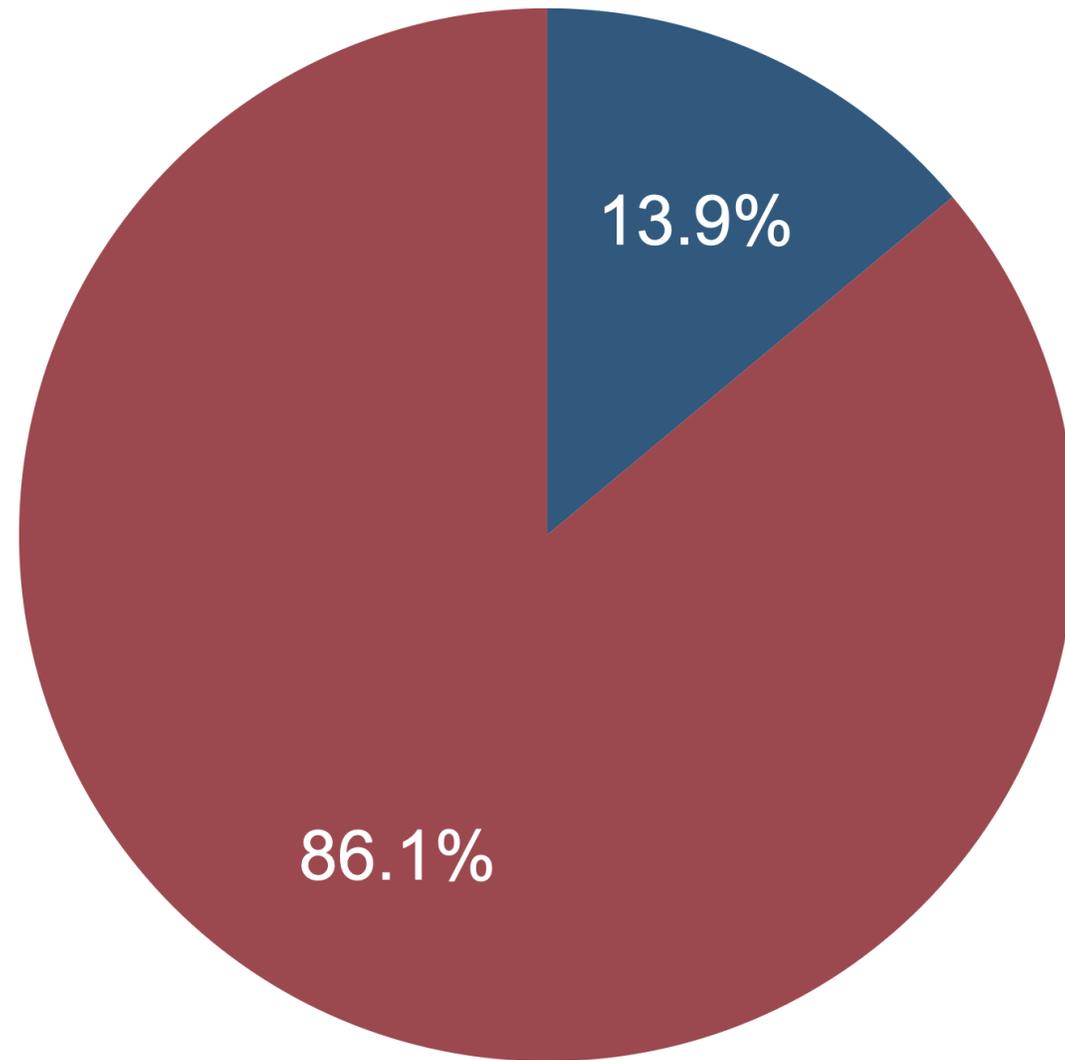
# ワクチン「3回接種」が最も多く48.1%



0回接種	1回接種
2回接種	3回接種
4回接種	

n=3,476

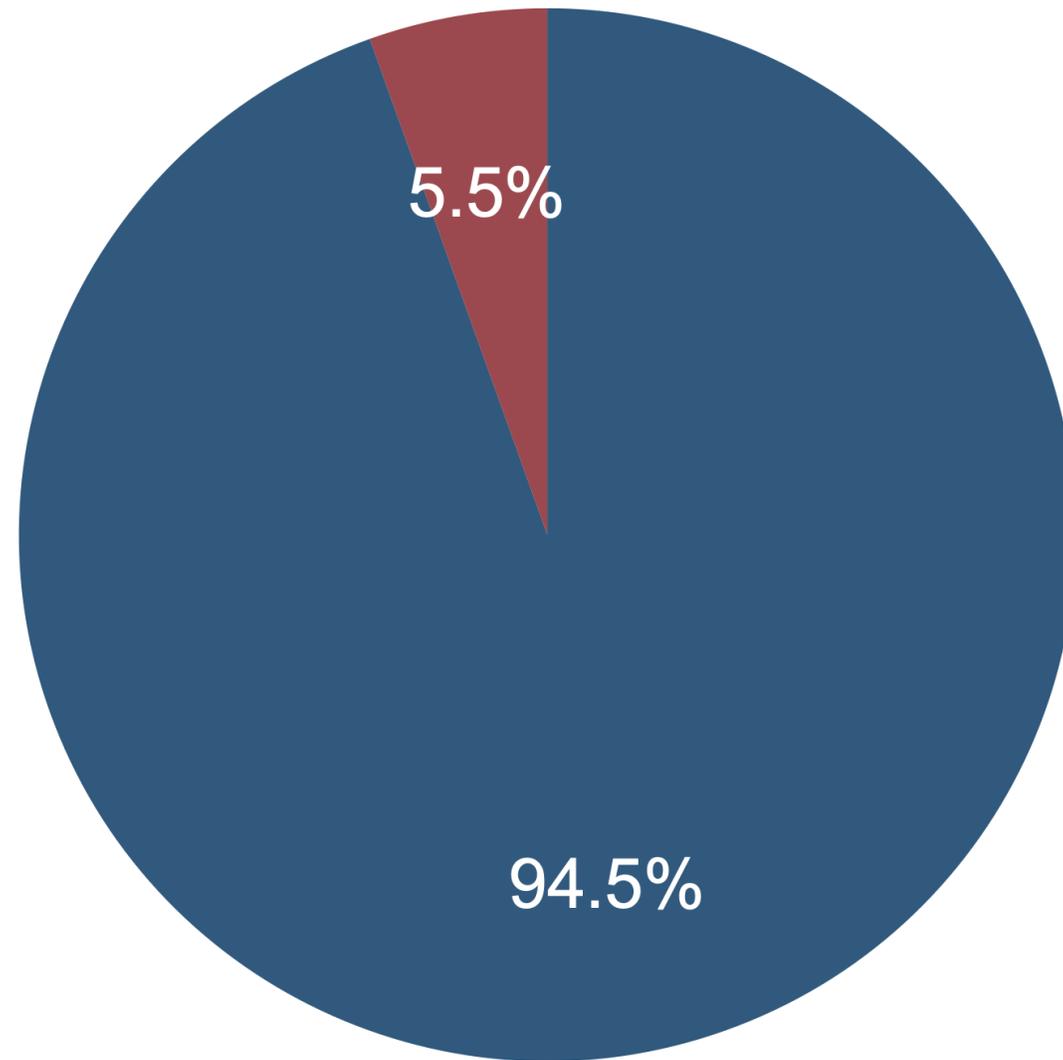
# コロナ感染時における自覚症状「あり」が86.1%



いいえ はい

n=3,212

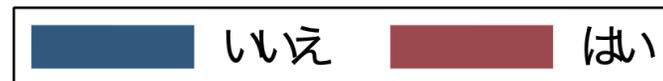
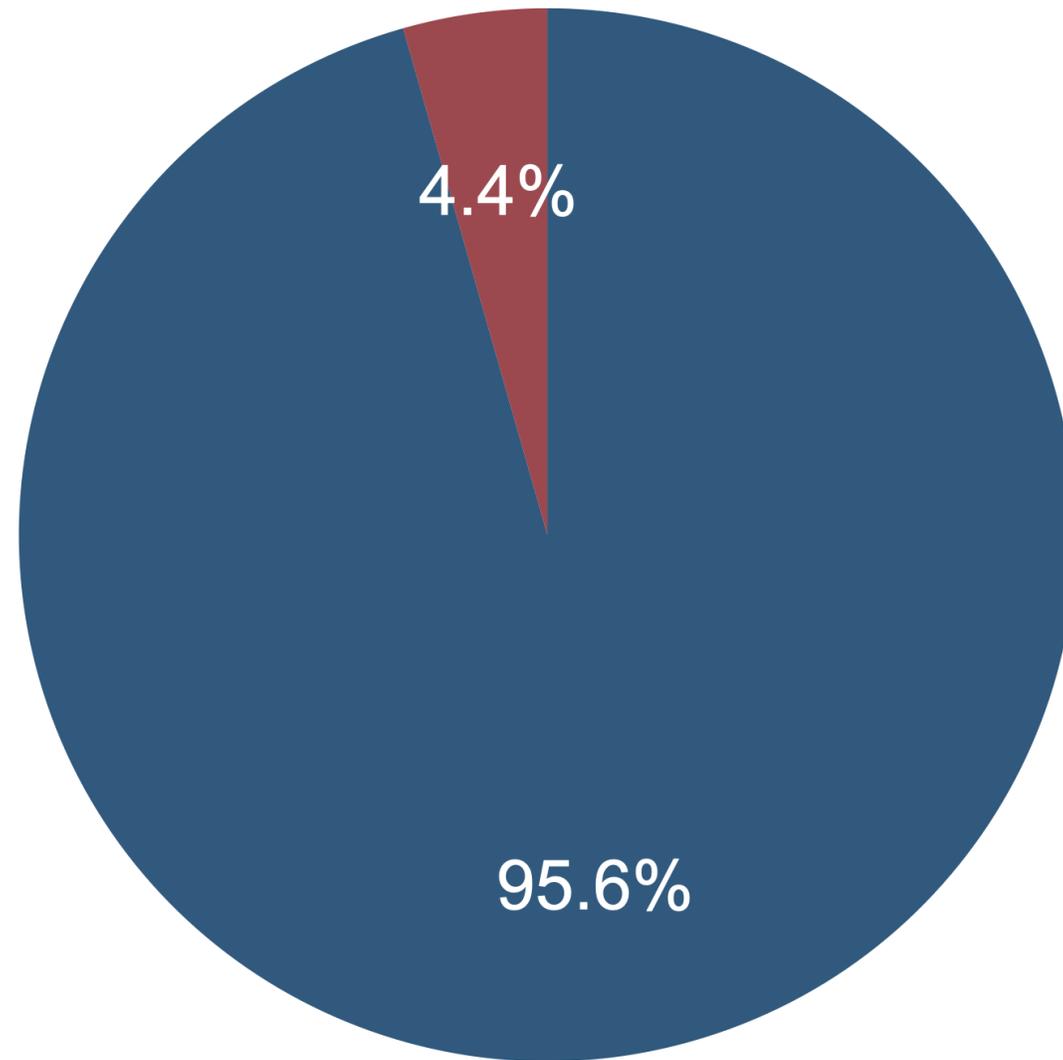
# 肺炎の診断「あり」と回答した者が5.5%



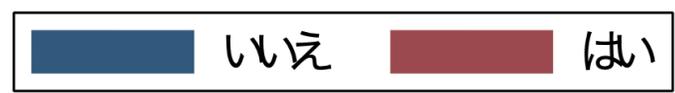
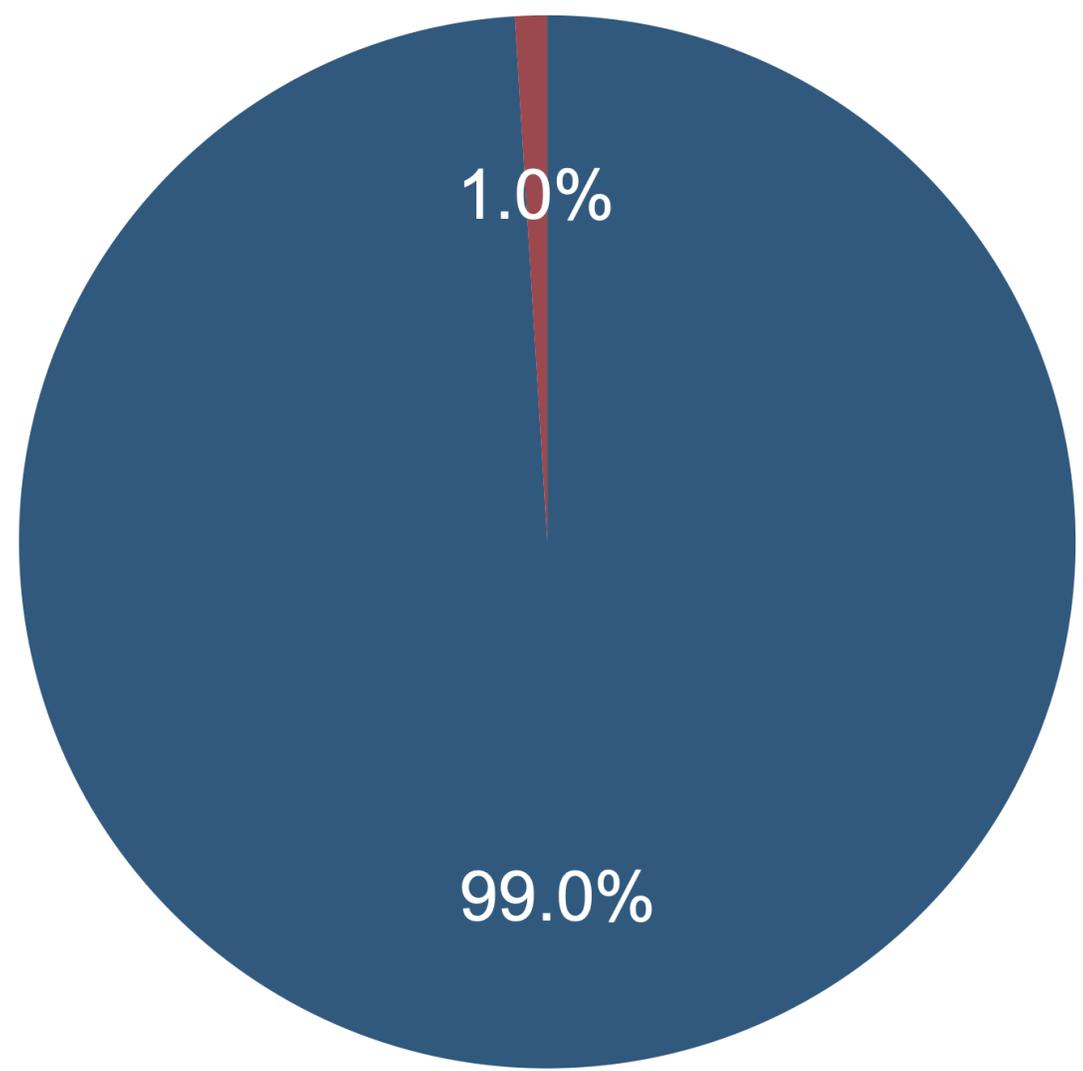
いいえ はい

n=2,712

酸素投与「あり」と回答した者が4.4%

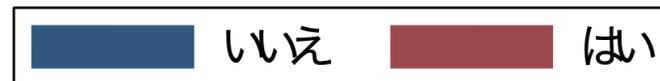
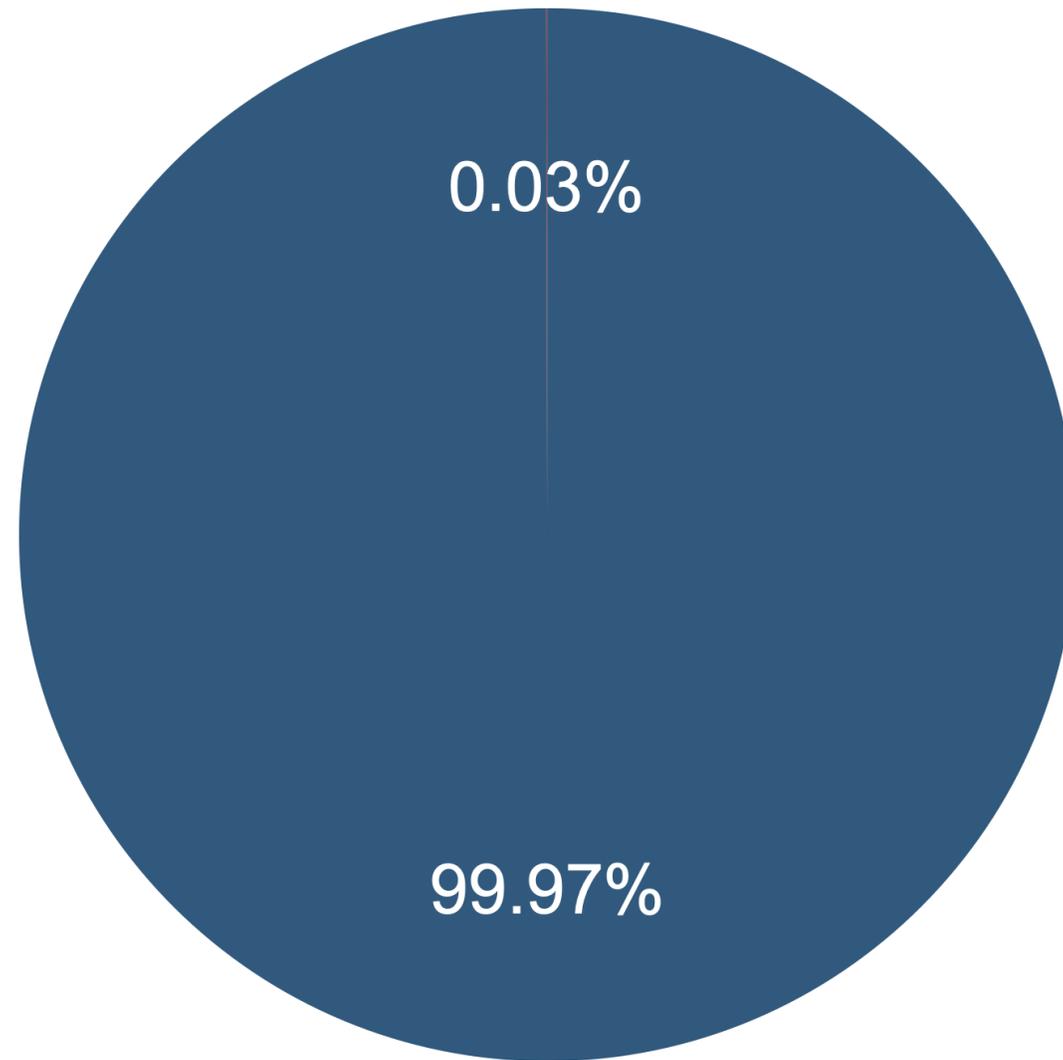


n=3,158



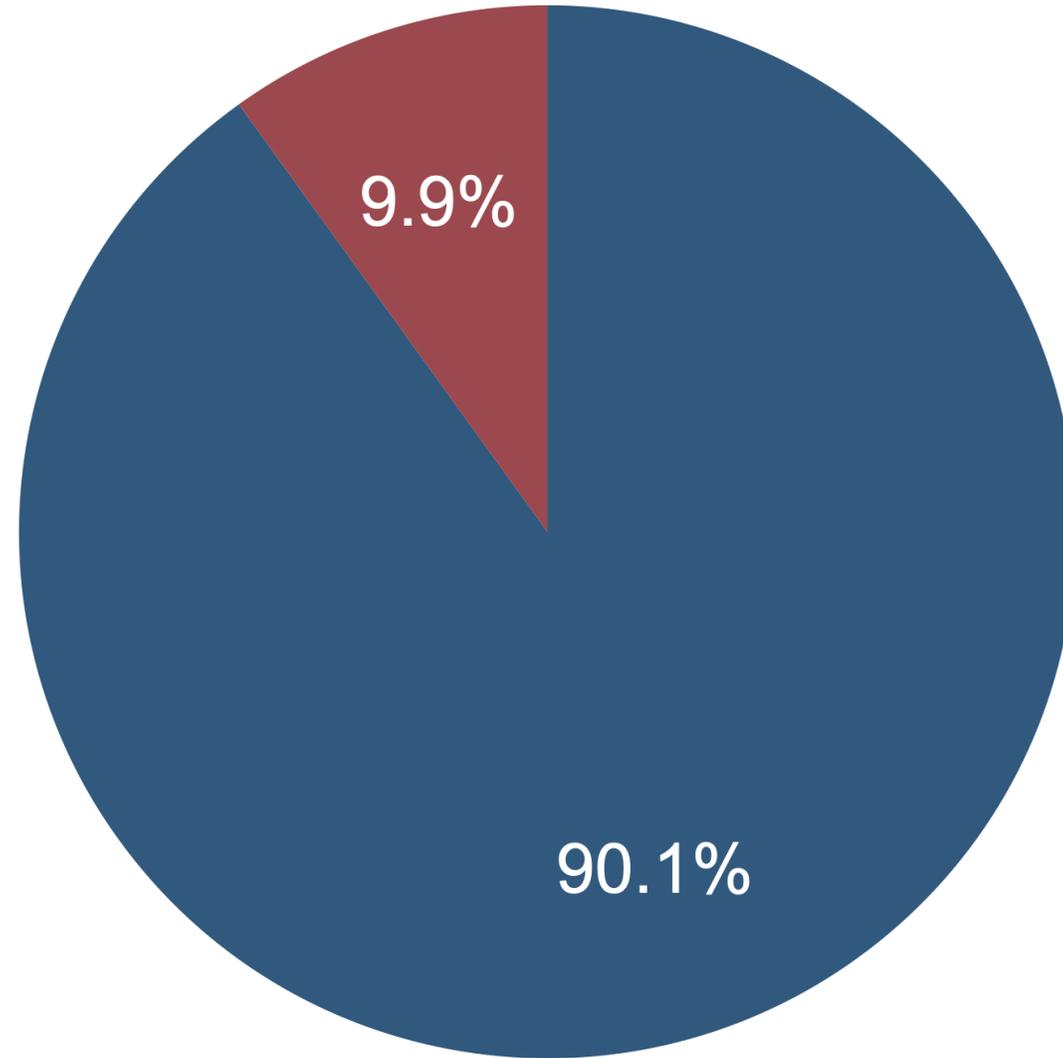
n=3,157

# ECMO「あり」と回答した者が0.03%



n=3,152

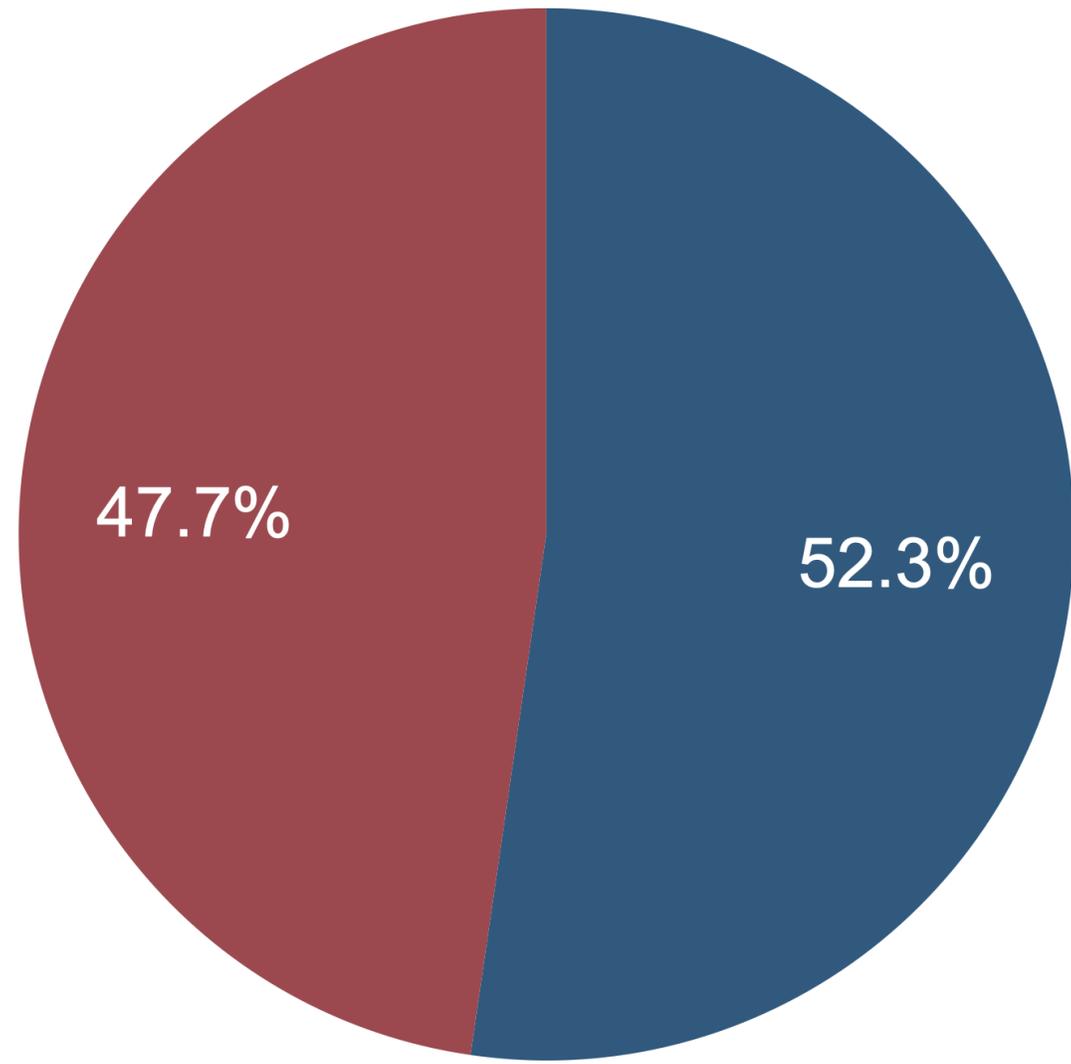
# 治療薬の処方「あり」と回答した者が9.9%



いいえ はい

n=2,983

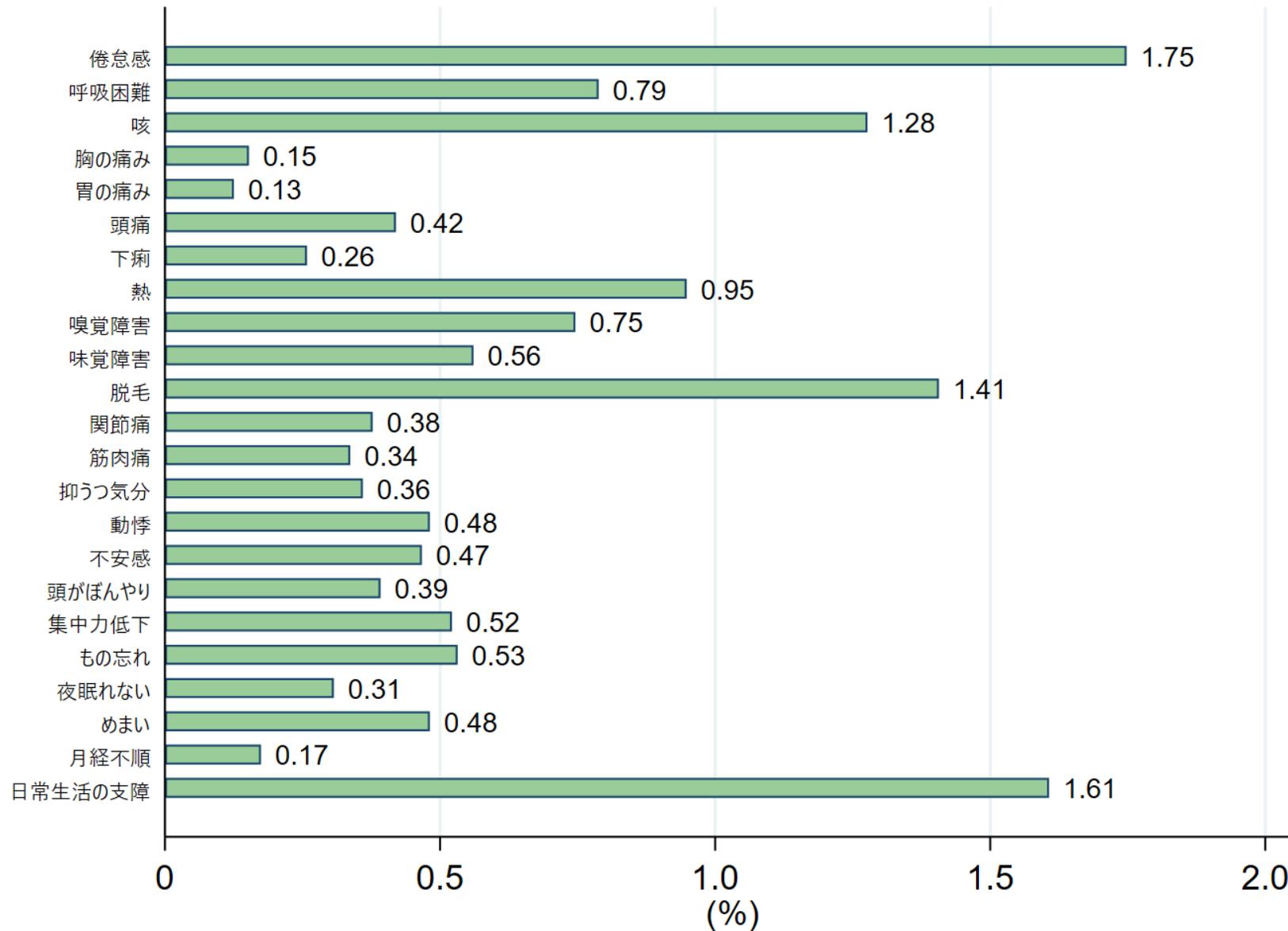
# コロナ感染後に何らかの症状「あり」は47.7%



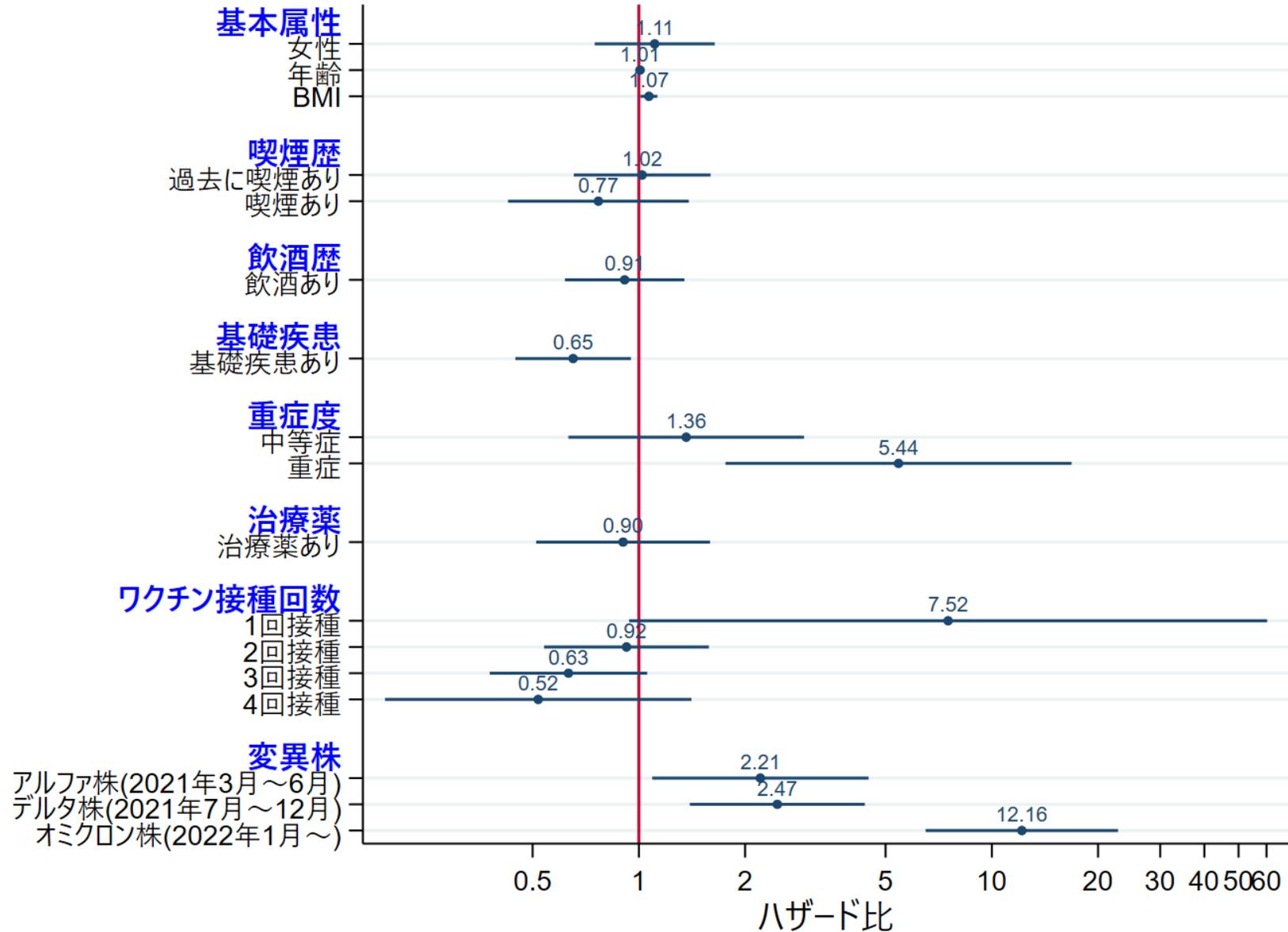
いいえ はい

n=3,247

# 後遺症が30日以上続いた人の割合 - 「倦怠感」が最も多く1.75%

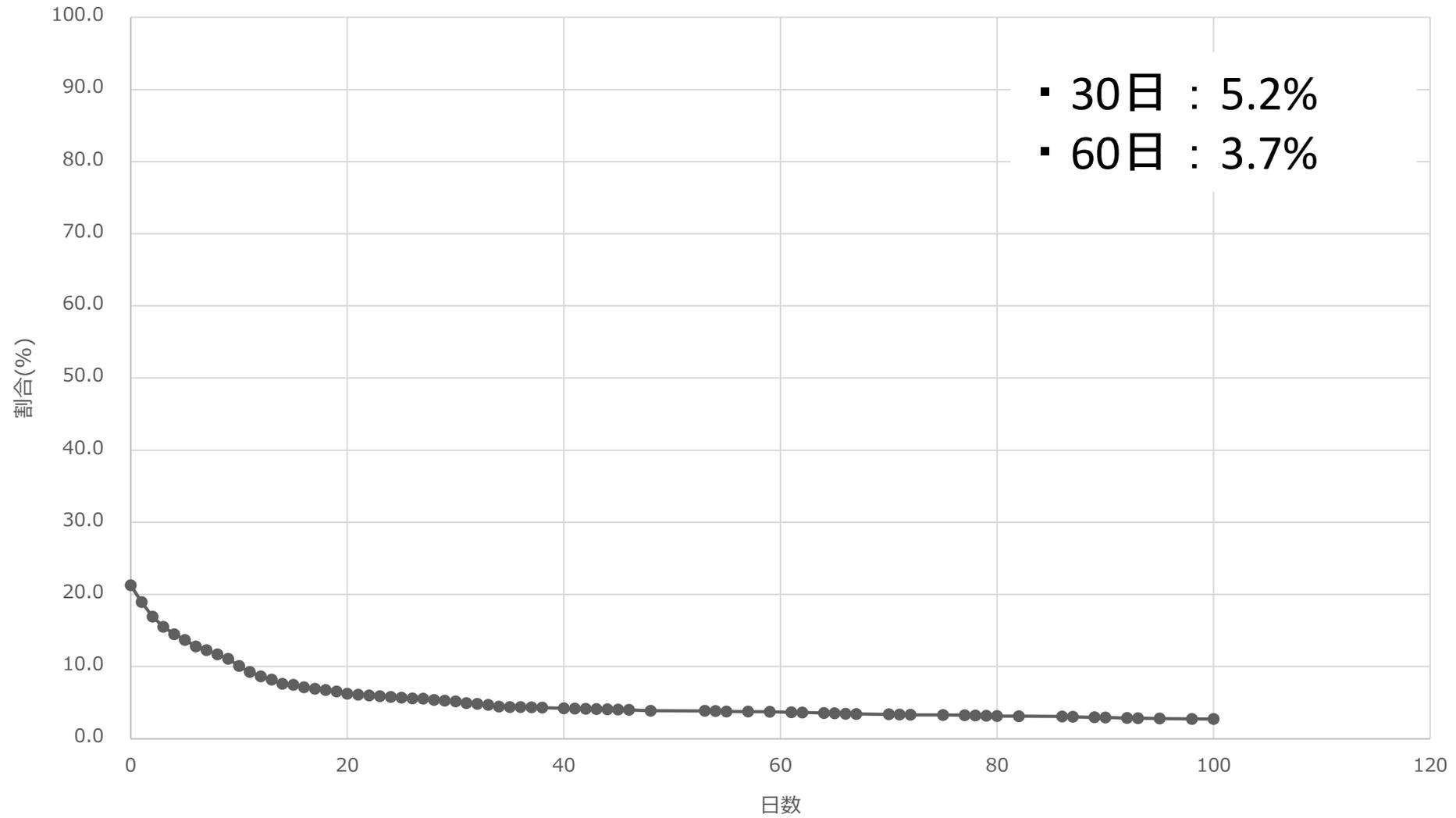


# 基本属性、治療薬の有無、ワクチン接種回数、変異株と後遺症(30日以上)との関係



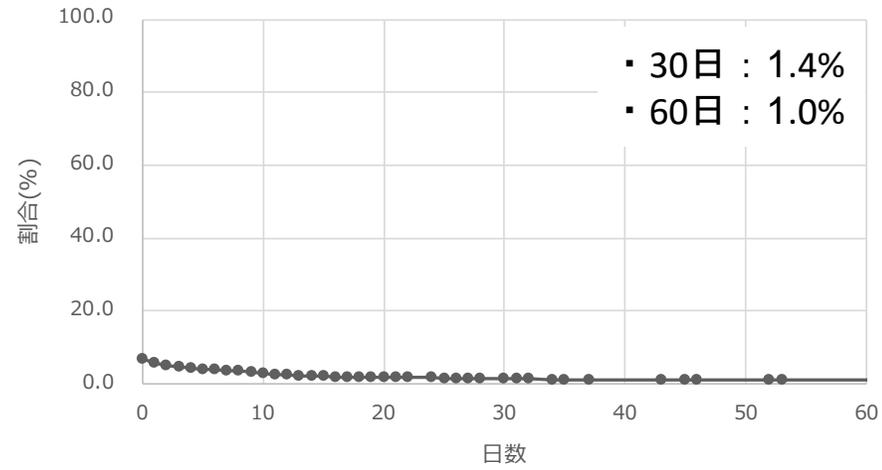
# 後遺症の日数と割合との関係

後遺症

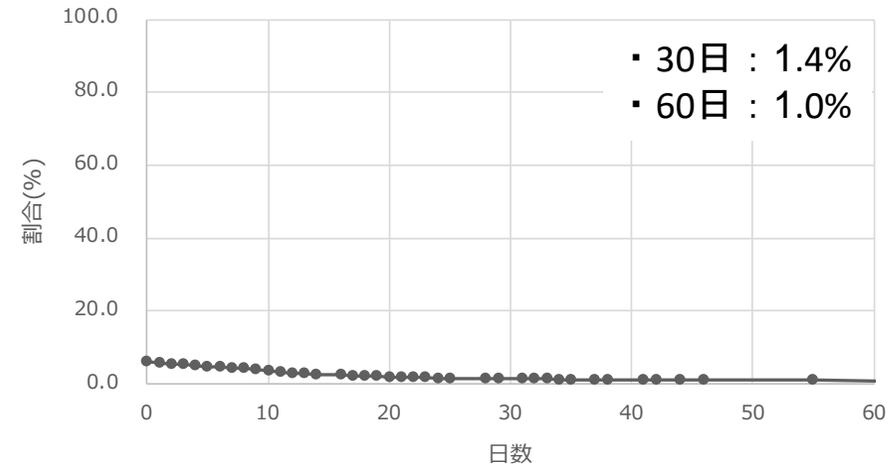


# 後遺症の日数と割合との関係

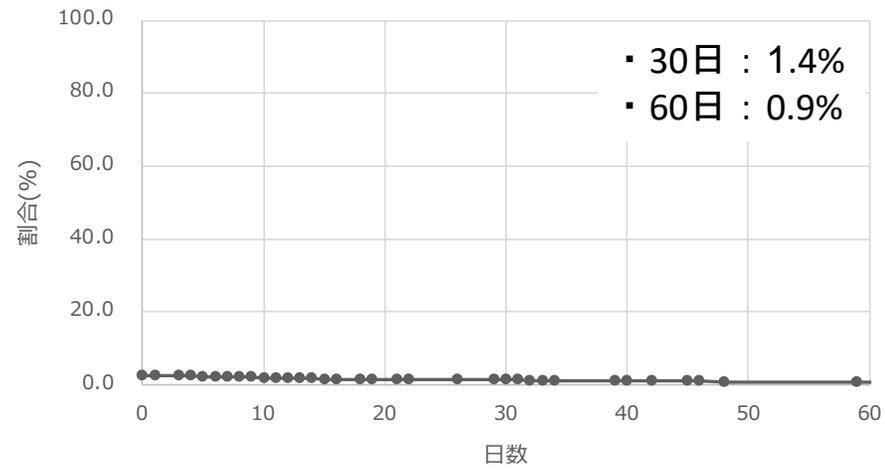
倦怠感



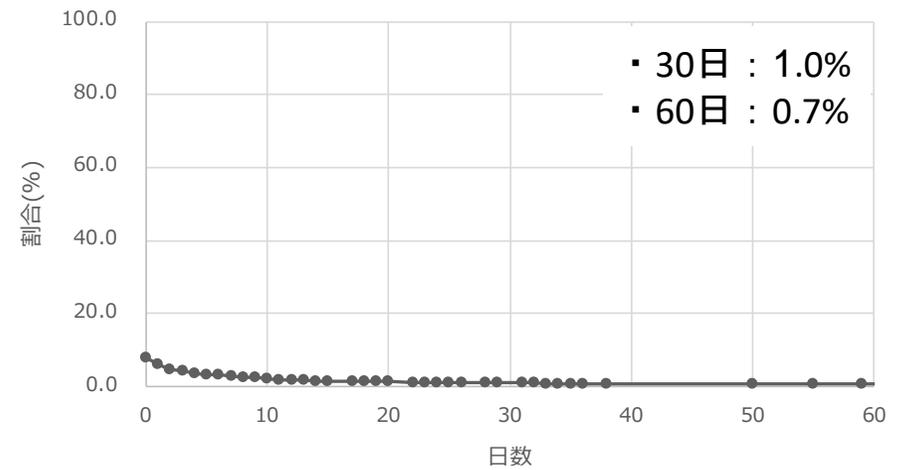
日常生活の支障



脱毛



咳



## まとめ1 回答者の背景

- COVID-19の既往を持つ豊中市市民の4,047名からコロナ後遺症についてのアンケート調査の回答を得た
- 流行状況を反映し、オミクロン株流行以降に感染した市民が77%を占めた
- 回答者の75%が回答時に2回以上ワクチン接種していた
- 4%が酸素投与、1%が人工呼吸管理、0.03%がECMOを使用していた
- 感染から1ヶ月後の時点で最も頻度が高い症状は倦怠感、咳、脱毛であり、感染者の1.6%の人が日常生活に支障を感じていた

- 全体の回答者のうち47.7%の人が罹患後症状を経験していた
- 男性よりも女性が後遺症を経験しやすい傾向にあった
- 年齢、治療内容、ワクチン接種歴による後遺症の頻度は変わらなかった
- 基礎疾患ありの方のほうが後遺症を経験しにくく、重症の方のほうが後遺症を経験していた
- 流行初期のウイルスと比べて、アルファ株、デルタ株、オミクロン株が主流の時期に感染した方が後遺症の頻度が高かった

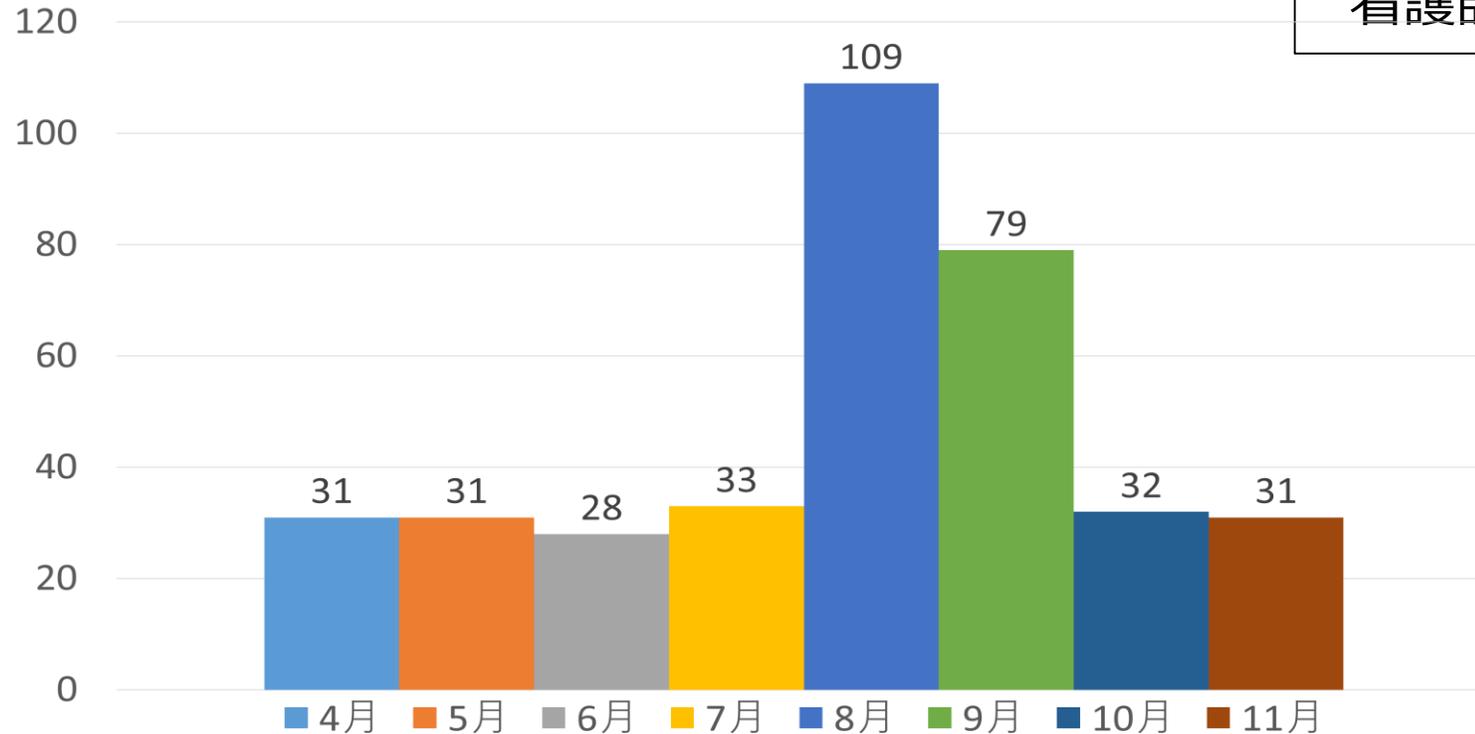
- オミクロン株感染者が大多数を占める現状でも、感染者の20人に1人が1ヶ月後時点で、27人に1人が2ヶ月後時点で何らかの後遺症症状を訴えており、決して軽視できる頻度ではない
- 重症度の高かった人では後遺症を訴えやすい、という結果およびワクチン接種者では後遺症が起こりにくい傾向からは、特に重症度リスクの高い人のワクチン接種や感染予防策は引き続き重要である

# とよなかコロナ後遺症相談窓口への相談概要

## ●相談の総数

令和4年4月1日～11月30日 計374件

## ●月ごとの相談件数の推移



### 《とよなかコロナ後遺症相談窓口の概要》

令和4年4月1日～開始。

相談時間：平日 9時～16時。

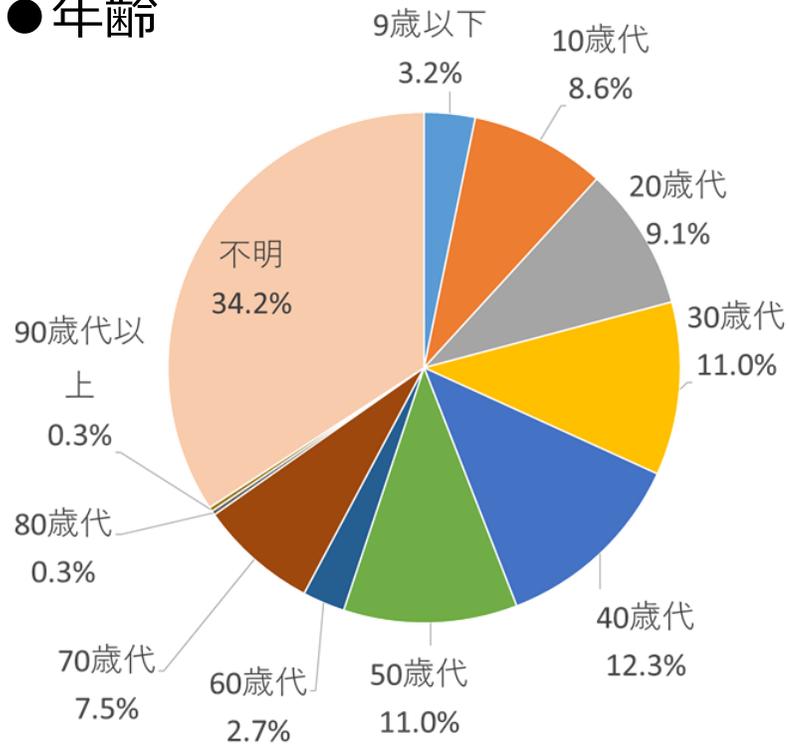
看護師、保健師の専門職で相談対応。



# とよなかコロナ後遺症相談窓口への相談概要

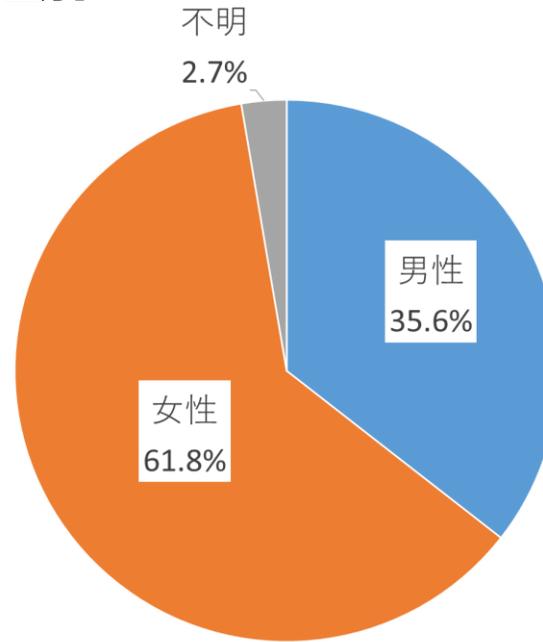
「コロナ罹患後の後遺症の相談」 (令和4年4月1日～11月30日の相談件数 n=374)

## ● 年齢



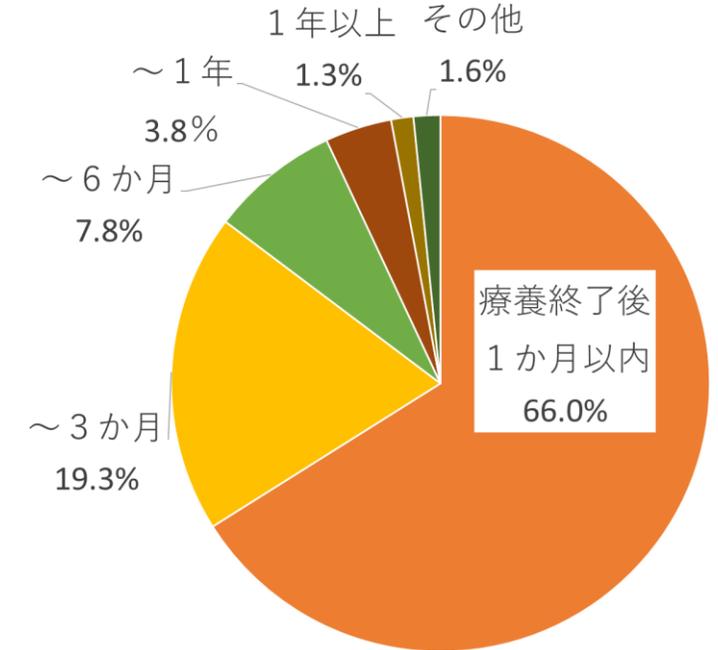
40歳代の相談が12.3%と最も多く、次いで30・50歳代が多い。

## ● 性別



男女比は4:6で、女性の相談が多い。

## ● 相談時期

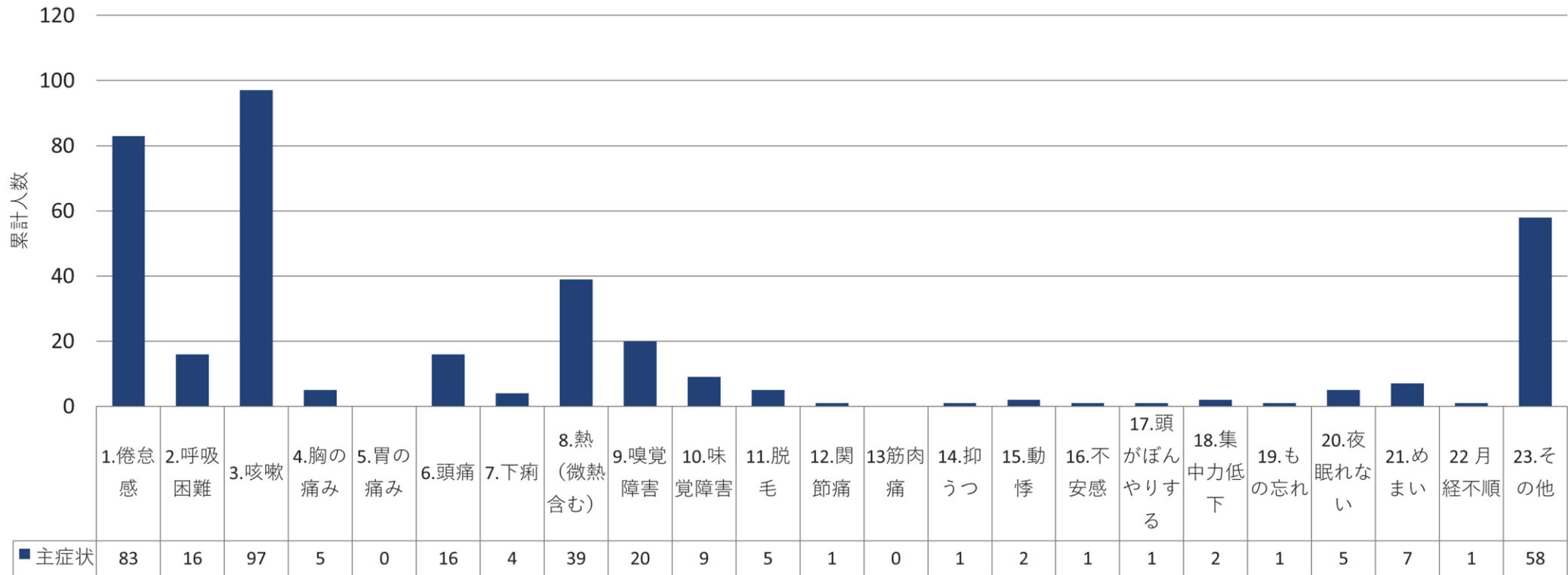


療養終了後1か月以内での相談が66.0%を占める。

# とよなかコロナ後遺症相談窓口への相談概要

## ●症状の内訳（令和4年4月1日～11月30日の相談件数n=374）

主症状は、咳嗽（25.9%）と倦怠感（22.2%）が多く、この2つで48.1%を占める。

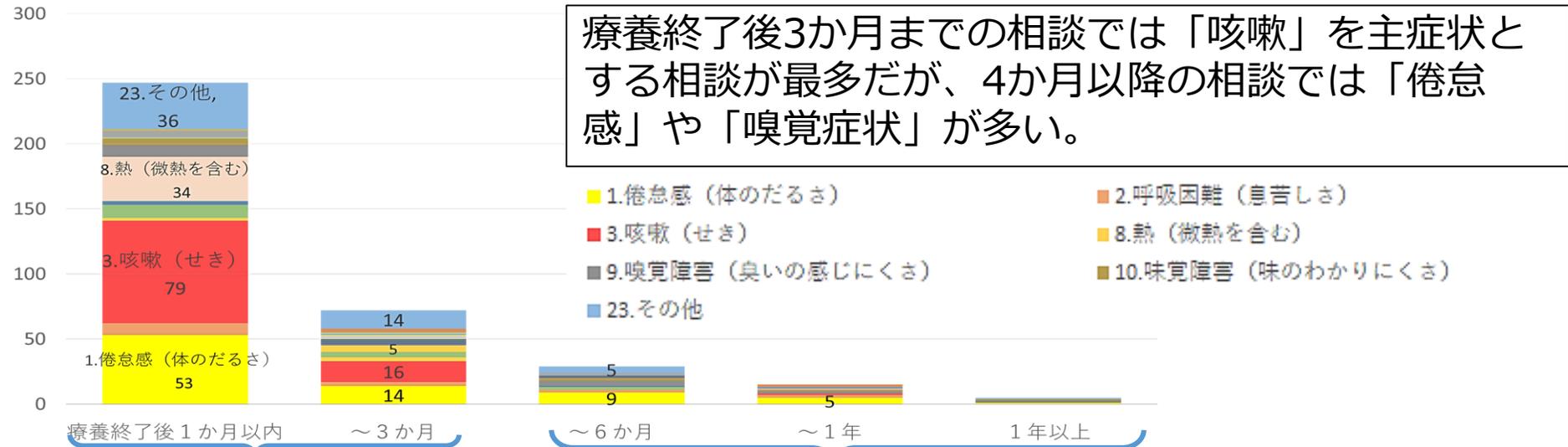


「その他」の症状は、手足のしびれや痛み、咽頭痛、腹痛、嘔気、腰痛、鼻水・鼻づまり 等



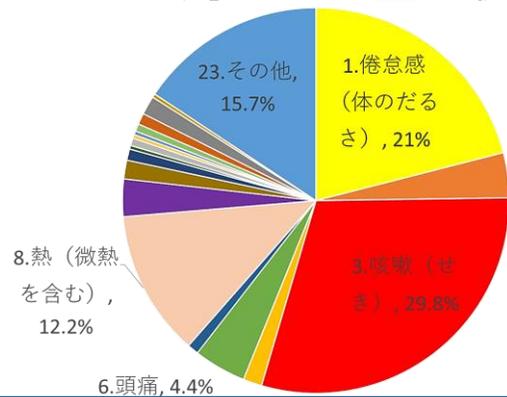
# とよなかコロナ後遺症相談窓口への相談概要

## ●相談時期と主症状（令和4年4月1日～11月30日の相談件数 n=374）



療養終了後3か月までの相談では「咳嗽」を主症状とする相談が最多だが、4か月以降の相談では「倦怠感」や「嗅覚症状」が多い。

### <療養終了後～3か月までの主症状> (n=319)



### <療養終了後3か月以降での主症状> (n=55)

